

「旭川市子ども・子育てプラン」(次期計画) に関するニーズ調査

結果報告書

平成31年(2019年)3月

旭 川 市

目 次

I 調査概要（調査目的・内容）	1
-----------------------	---

II 調査結果の概要

調査結果（就学前児童，就学児童（小学）の保護者）	3
1 基本属性	4
2 保護者の就労状況	5
3 平日の定期的な「教育・保育事業」	6
4 休日，土曜・長期休暇中の利用希望	8
5 放課後に過ごしている場所	10
6 子どもの病気の際の対応	11
7 不定期の「教育・保育事業」の利用や，宿泊を伴う一時預かり	12
8 地域の子育て支援事業（地域子育て支援センター）	14
9 特別の支援の必要性	14
10 児童センター	15
11 地域活動への参加	16
12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	17
13 子育てに関する悩みや不安感	18
14 子育てに関するサービス・活動の認知度と利用意向	26
15 旭川市で子育てを行っている中での満足度	28
16 子育てに関する行政サービスへの要望	29
調査結果（ひとり親世帯（父子）の保護者）	31
1 基本属性	32
2 養育費の受取りと面会交流	32
3 子育てに関する悩みや不安感	33
4 旭川市で子育てを行っている中での満足度	36
5 子育てに関する行政サービスへの要望	37

I 調査概要

1 目的

本調査は、2020 年度からの 5 年間を計画期間とする「旭川市子ども・子育てプラン」の次期計画を策定するにあたり、子育て世帯の生活実態や、子育て支援に関する事業の利用状況や利用希望などを把握することを目的として実施しました。

2 調査対象

No.	調査対象	調査対象者数	調査方法
1	就学前児童の保護者	2,500 人	住民基本台帳（平成 30 年 10 月）から無作為により抽出した。
2	就学児童（小学生）の保護者	2,500 人	
3	ひとり親世帯（父子）の保護者	100 人	
合計		5,100 人	

※ ひとり親世帯（父子）は、男性の世帯主と 18 歳未満の子による世帯から抽出

3 調査内容

- (1) 幼児教育・保育に関すること（保護者の就労状況、幼児教育・保育のニーズ量の把握）
- (2) 地域子ども・子育て支援事業に関すること（放課後児童クラブなど各事業のニーズ量の把握）
- (3) その他子ども・子育て支援等に関すること

4 調査方法

無記名によるアンケート方式

郵送により調査票を配付・回収

5 実施時期

- (1) 調査票の発送日 平成 30 年 11 月 16 日（金）
- (2) 調査票の提出期限 平成 30 年 12 月 7 日（金）

6 調査票の回収状況

No.	調査対象	調査票の配付数	調査票の回収数	調査票の回収率
1	就学前児童の保護者	2,500 件	1,154 件	46.2%
2	就学児童（小学生）の保護者	2,500 件	1,239 件	49.6%
3	ひとり親世帯（父子）の保護者	100 件	39 件	39.0%
合計		5,100 件	2,432 件	47.7%

7 調査結果の見方

- (1) 回答欄には、複数回答も含まれます。
- (2) 結果数値(%)は小数点第1位又は第2位を四捨五入して表示しているため、内訳の計が合計(100%)と一致しない場合があります。
- (3) 複数回答の項目における割合(%)については、対象回答者数を分母として集計しています。
- (4) 単数回答と複数回答を合わせた表では、複数回答の割合(%)を括弧書きとして整理しています。
- (5) 各項目にある **就学前** **就学(小学)** **ひとり親(父子)** の表示は、それぞれ就学前児童の保護者、就学児童(小学生)の保護者、ひとり親世帯(父子)の保護者を対象とした回答項目であることを示しています。
- (6) 表中にある世帯の区分は、家族類型に関する設問(問5)の回答をもとに次のとおり分類しています。

両親世帯	「両親世帯」, 「祖父母同居の両親世帯」 の合計
ひとり親世帯	「母子世帯」, 「父子世帯」, 「祖父母同居の母子世帯」, 「祖父母同居の父子世帯」 の合計
その他	「祖父母と子どものみの世帯」, 「その他」 の合計

調査結果

（就学前児童，就学児童（小学）の保護者）

1 基本属性

(1) 子どもの年齢と学年（H30.10 現在）

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編 P 1）

調査回答した世帯の子どもの年齢について、「3歳（の子どもを持つ親の回答数）」が最も多い。

【就学（小学）】（資料編 P 38）

いずれの学年も 200 名程度の回答があり、「小4」が 17.2%で高い割合となっている。

・就学前

（単位：人、％）

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
182	182	176	213	201	187	1,141
16.0%	16.0%	15.4%	18.7%	17.6%	16.4%	100.0%

・就学（小学）

（単位：人、％）

小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
211	200	208	213	198	205	1,235
17.1%	16.2%	16.8%	17.2%	16.0%	16.6%	100.0%

(2) 家族形態

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編 P 1）

家族形態では、「両親世帯（父母＋子ども）」が 85.6%で大部分を占め、6.3%が「ひとり親世帯（母＋子ども（＋祖父母））」である。

【就学（小学）】（資料編 P 38）

就学前の調査と同じく、「両親世帯（父母＋子ども）」が大部分を占めている。

「ひとり親世帯（母又は父＋子ども（＋祖父母））」は合計 10.8%で、就学前よりも高い割合である。

・就学前

（単位：人、％）

両親世帯	祖父母 同居の 両親世帯	母子世帯	父子世帯	祖父母 同居の 母子世帯	祖父母 同居の 父子世帯	祖父母と 子どものみ の世帯	その他	合計
987	79	47	0	25	0	1	14	1,153
85.6%	6.9%	4.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.1%	1.2%	100.0%

・就学（小学）

（単位：人、％）

両親世帯	祖父母 同居の 両親世帯	母子世帯	父子世帯	祖父母 同居の 母子世帯	祖父母 同居の 父子世帯	祖父母と 子どものみ の世帯	その他	合計
991	87	98	1	34	0	3	20	1,234
80.3%	7.1%	7.9%	0.1%	2.8%	0.0%	0.2%	1.6%	100.0%

2 保護者の就労状況

(1) 保護者の就労状況

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P 2, 3）

母親の就労状況について、「フルタイム」勤務が33.3%、「パート・アルバイト」勤務が33.2%とほぼ同じ値を示している。「フルタイム」では、前回調査（22.2%）と比較して11.1%高くなり、その一方で、「現在就労していない」が31.0%と、前回調査（43.5%）と比較してその割合は低い。

父親の就労状況では、「フルタイム」勤務が98.7%で、「パート・アルバイト」勤務が0.3%となっている。

【就学（小学）】（資料編P39, 40）

母親の就労状況について、「フルタイム」勤務（33.0%）よりも、「パート・アルバイト」勤務（43.5%）と答えた割合が高い。父親の就労状況については、就学前の回答と大きな違いはない。

・就学前 (単位: 人, %)						・就学(小学) (単位: 人, %)					
	フルタイム	パート アルバイト	現在就労 してない	就労経験 なし	合計		フルタイム	パート アルバイト	現在就労 してない	就労経験 なし	合計
母親	381 33.3%	379 33.2%	354 31.0%	29 2.5%	1,143 100.0%	母親	404 33.0%	533 43.5%	243 19.8%	45 3.7%	1,225 100.0%
父親	1,002 98.7%	3 0.3%	10 1.0%	0 0.0%	1,015 100.0%	父親	1,019 98.4%	6 0.6%	11 1.1%	0 0.0%	1,036 100.0%

(2) パート・アルバイトから、フルタイムへの転換希望

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P 2, 4）

「パート・アルバイト」と回答した母親に、フルタイム就労への転換希望をたずねたところ、60.9%が「パート・アルバイト等の就労継続」を希望している。これに対し、26.3%が「フルタイムへの転換を希望しているものの実現できる見込みがない」である。

【就学（小学）】（資料編P39, 40）

母親のフルタイム就労への転換希望について、62.1%が「パート・アルバイト等の就労継続」を希望している。これに対し、24.9%が「フルタイムへの転換を希望しているものの実現できる見込みがない」である。

・就学前 (単位: 人, %)						・就学(小学) (単位: 人, %)					
	フルタイムの希 望で見込みが ある	フルタイムの希 望があるが見込 みはない	パート等の 就労継続 を希望	子育て・ 家事への 専念を希望	合計		フルタイムの希 望で見込みが ある	フルタイムの希 望があるが見込 みはない	パート等の 就労継続 を希望	子育て・ 家事への 専念を希望	合計
母親	31 8.2%	99 26.3%	229 60.9%	17 4.5%	376 100.0%	母親	43 8.1%	132 24.9%	329 62.1%	26 4.9%	530 100.0%
父親	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	父親	2 33.3%	3 50.0%	1 16.7%	0 0.0%	6 100.0%

3 平日の定期的な「教育・保育事業」

(1) 年間を通じた定期的な利用の有無と、利用していない理由

就学前

【就学前】（資料編P 5， 7）

定期的な利用について、「利用している」が71.5%、「利用していない」が28.5%であり、年齢（2区分）で見ると、「3～5歳」では94.8%が利用し、「0～2歳」では54.4%が利用していない。

・利用の有無

（単位：人，％）

	利用している	利用していない	合計
0～2歳	246 45.6%	294 54.4%	540 100.0%
3～5歳	568 94.8%	31 5.2%	599 100.0%
合計	814 71.5%	325 28.5%	1,139 100.0%

・利用していない理由

【複数回答】（単位：人，％）

	利用する必要がない	祖父母などが面倒をみる	友人などが面倒をみる	教育・保育事業に空きがない	経済的な理由	時間帯の条件が合わない	事業の質などに納得できない	子どもが小さい	その他	合計
0～2歳	156 54.4%	29 10.1%	2 0.7%	36 12.5%	28 9.8%	5 1.7%	8 2.8%	158 55.1%	25 8.7%	287 -
3～5歳	21 67.7%	5 16.1%	0 0.0%	5 16.1%	5 16.1%	2 6.5%	0 0.0%	13 41.9%	5 16.1%	31 -
合計	177 55.7%	34 10.7%	2 0.6%	41 12.9%	33 10.4%	7 2.2%	8 2.5%	171 53.8%	30 9.4%	318 -

(2) 利用状況

就学前

【就学前】（資料編P 5）

現在の利用状況として、「認可保育所」（35.6%）、「認定こども園」（26.8%）、「幼稚園」（26.0%）の割合が高い。年齢でみると、「0～2歳」では「認可保育所」（46.0%）、「認定こども園」（31.2%）、「その他の認可施設（小規模）」（8.4%）、「3～5歳」では「幼稚園」（36.9%）、「認可保育所」（31.2%）、「認定こども園」（25.0%）の順である。

【複数回答】（単位：人，％）

	幼稚園		認定こども園			認可保育所		その他認可保育施設	
	幼稚園	一時預かり	認定こども園	一時預かり	延長保育	認可保育所	延長保育	小規模	事業所内
0～2歳	0 0.0%	0 0.0%	74 31.2%	3 1.3%	12 5.1%	109 46.0%	15 6.3%	20 8.4%	4 1.7%
3～5歳	208 36.9%	72 12.8%	141 25.0%	20 3.5%	27 4.8%	176 31.2%	32 5.7%	8 1.4%	1 0.2%
合計	208 26.0%	72 9.0%	215 26.8%	23 2.9%	39 4.9%	285 35.6%	47 5.9%	28 3.5%	5 0.6%

【複数回答】（単位：人，％）

	認可外施設			ファミサポ・緊急さぽ	合計
	私立認可外	公立認可外	企業主導型		
0～2歳	19 8.0%	5 2.1%	4 1.7%	14 5.9%	237 -
3～5歳	22 3.9%	5 0.9%	1 0.2%	16 2.8%	564 -
合計	41 5.1%	10 1.2%	5 0.6%	30 3.7%	801 -

(3) 現在の制度を前提とした利用希望

就学前

【就学前】（資料編P 6）

平日の定期的な「教育・保育事業」の利用希望についてたずねたところ、「0～2歳」では、「認可保育所」が最も多く50.5%であり、次いで「認定こども園」が48.9%、「幼稚園」が36.2%である。「3～5歳」では、「幼稚園」が38.0%で最も高い割合であり、「認定こども園」が31.8%、「認可保育所」が29.9%となっている。

【複数回答】（単位：人、％）

	幼稚園		認定こども園			認可保育所		その他認可保育施設		
	幼稚園	一時預かり	認定こども園	一時預かり	延長保育	認可保育所	延長保育	小規模	事業所内	家庭的、居宅訪問型
0～2歳	117	42	158	14	22	163	36	27	5	1
	36.2%	13.0%	48.9%	4.3%	6.8%	50.5%	11.1%	8.4%	1.5%	0.3%
3～5歳	141	65	118	21	29	111	29	2	1	0
	38.0%	17.5%	31.8%	5.7%	7.8%	29.9%	7.8%	0.5%	0.3%	0.0%
合計	258	107	276	35	51	274	65	29	6	1
	37.2%	15.4%	39.8%	5.0%	7.3%	39.5%	9.4%	4.2%	0.9%	0.1%

【複数回答】（単位：人、％）

	認可外施設			ファミサポ・緊急さぽ	合計
	私立認可外	公立認可外	企業主導型		
0～2歳	10	3	8	27	323
	3.1%	0.9%	2.5%	8.4%	—
3～5歳	15	4	4	33	371
	4.0%	1.1%	1.1%	8.9%	—
合計	25	7	12	60	694
	3.6%	1.0%	1.7%	8.6%	—

(4) 「幼児教育・保育の無償化」実施後の制度を前提とした利用希望

就学前

【就学前】（資料編P 6）

無償化した場合の利用希望についてもたずねたところ、「3～5歳」では、「幼稚園」が45.8%で、前問の利用希望（38.0%）と比べてさらに高い割合を示した。無償化による利用希望は、多くのサービスで増加しているが、本調査の結果からは、一時預かりを含んだ幼稚園の利用希望が高まっていることがうかがえる。

【複数回答】（単位：人、％）

	幼稚園		認定こども園			認可保育所		その他認可保育施設		
	幼稚園	一時預かり	認定こども園	一時預かり	延長保育	認可保育所	延長保育	小規模	事業所内	家庭的、居宅訪問型
0～2歳	191	76	227	29	44	217	59	24	1	1
	44.7%	17.8%	53.2%	6.8%	10.3%	50.8%	13.8%	5.6%	0.2%	0.2%
3～5歳	211	113	151	30	42	144	40	2	1	2
	45.8%	24.5%	32.8%	6.5%	9.1%	31.2%	8.7%	0.4%	0.2%	0.4%
合計	402	189	378	59	86	361	99	26	2	3
	45.3%	21.3%	42.6%	6.6%	9.7%	40.7%	11.1%	2.9%	0.2%	0.3%

【複数回答】（単位：人、％）

	認可外施設			ファミサポ・緊急さぽ	合計
	私立認可外	公立認可外	企業主導型		
0～2歳	11	5	6	47	427
	2.6%	1.2%	1.4%	11.0%	—
3～5歳	17	4	5	59	461
	3.7%	0.9%	1.1%	12.8%	—
合計	28	9	11	106	888
	3.2%	1.0%	1.2%	11.9%	—

4 休日、土曜日・長期休暇中の利用希望

(1) 日曜日・祝日の利用希望

就学前

【就学前】（資料編P9）

休日、土曜・長期休暇中の「教育・保育事業」について、年間を通じた定期的な利用希望の有無についてたずねた。

日曜日・祝日では、「利用する必要はない」が86.5%、「利用する必要がある」が13.5%である。「利用する必要がある」について、年齢（2区分）でみたところ、「0～2歳」（15.7%）が「3～5歳」（11.5%）よりも高い割合を示している。頻度については、「月1～2回」が最も高い割合となっている。

（単位：人、％）

	利用する必要はない	利用する必要がある	ほぼ毎週	月1～2回	無回答	合計
0～2歳	428 84.3%	80 15.7%	20 3.9%	60 11.8%	0 0.0%	508 100.0%
3～5歳	514 88.5%	67 11.5%	14 2.4%	52 9.0%	1 0.2%	581 100.0%
合計	942 86.5%	147 13.5%	34 3.1%	112 10.3%	1 0.1%	1,089 100.0%

(2) 土曜日の利用希望

就学前

【就学前】（資料編P10）

土曜日の利用希望では、「利用する必要はない」が74.2%、「利用する必要がある」が25.8%である。

「利用する必要がある」について、年齢でみたところ、「3～5歳」（27.6%）が「0～2歳」（23.1%）よりも高い割合を示している。頻度については、前問と同じく「月1～2回」が最も高い割合となっている。

（単位：人、％）

	利用する必要はない	利用する必要がある	ほぼ毎週	月1～2回	無回答	合計
0～2歳	30 76.9%	9 23.1%	3 7.7%	6 15.4%	0 0.0%	39 100.0%
3～5歳	42 72.4%	16 27.6%	4 6.9%	12 20.7%	0 0.0%	58 100.0%
合計	72 74.2%	25 25.8%	7 7.2%	18 18.6%	0 0.0%	97 100.0%

(3) 長期休暇中の利用希望

就学前

【就学前】（資料編P11）

長期休暇（夏休みなど）の利用希望は、「利用する必要はない」が35.9%と半数を下回り、「利用する必要がある」が64.1%であった。「利用する必要がある」について年齢でみたところ、「3～5歳」（75.8%）が「0～2歳」（46.3%）と比較して高い割合を示している。

これらの回答結果から、就学前の休日、土曜日・長期休暇中の定期的な「教育・保育事業」のニーズの強さについては、長期休暇＞土曜日＞日曜日・祝日となっており、特に「3～5歳」における長期休暇中の利用希望が強いことがうかがえる。

（単位：人、％）

	利用する必要はない	利用する必要がある				合計
			ほぼ毎週	月1～2回	無回答	
0～2歳	22	19	8	10	1	41
	53.7%	46.3%	19.5%	24.4%	2.4%	100.0%
3～5歳	15	47	22	25	0	62
	24.2%	75.8%	35.5%	40.3%	0.0%	100.0%
合計	37	66	30	35	1	103
	35.9%	64.1%	29.1%	34.0%	1.0%	100.0%

5 放課後に過ごしている場所

(1) 放課後に過ごしている場所(現在の状況)

就学(小学)

【就学（小学）】（資料編P41）

放課後に過ごしている場所について、全体で割合が最も高かったのは、「自宅」の80.4%であった。次いで「習い事」(57.1%)、「放課後児童クラブ」(18.2%)の順であった。学年別（3区分）でみると、学年進捗とともに「自宅」「習い事」の割合が高くなり、「放課後児童クラブ」の割合が低下している。

【複数回答】(単位:人, %)

	自宅	祖父母宅 知人宅	習い事	児童センター	放課後児童 クラブ	ファミサポ, 緊さぼ	その他	合計
小1～2	292 71.2%	62 15.1%	189 46.1%	18 4.4%	154 37.6%	3 0.7%	72 17.6%	410 -
小3～4	347 83.0%	55 13.2%	250 59.8%	12 2.9%	58 13.9%	2 0.5%	82 19.6%	418 -
小5～6	348 87.0%	55 13.8%	262 65.5%	5 1.3%	11 2.8%	4 1.0%	65 16.3%	400 -
合計	987 80.4%	172 14.0%	701 57.1%	35 2.9%	223 18.2%	9 0.7%	219 17.8%	1,228 -

(2) 放課後に過ごさせたい場所(希望)

就学(小学)

【就学（小学）】（資料編P42）

過ごさせたい場所については、「自宅」が76.4%で最も高く、「習い事」(66.1%)、「放課後児童クラブ」(19.6%)、「祖父母宅、知人宅」(14.2%)が続いている。

前問との比較では、「自宅」の割合は「小3～4」「小5～6」で低下しているのに対し、「習い事」の割合が9.0%増加しており、特に「小1～2」では15.8%増加している。相対的に割合は低いものの「児童センター」を選択した割合は、前問のおよそ3倍となっている。

【複数回答】(単位:人, %)

	自宅	祖父母宅 知人宅	習い事	児童センター	放課後児童 クラブ	ファミサポ, 緊さぼ	放課後子供 教室	その他	合計
小1～2	286 71.1%	53 13.2%	249 61.9%	38 9.5%	142 35.3%	1 0.2%	30 7.5%	85 21.1%	402 -
小3～4	320 77.7%	57 13.8%	270 65.5%	36 8.7%	72 17.5%	4 1.0%	28 6.8%	97 23.5%	412 -
小5～6	317 80.5%	62 15.7%	279 70.8%	28 7.1%	23 5.8%	4 1.0%	28 7.1%	83 21.1%	394 -
合計	923 76.4%	172 14.2%	798 66.1%	102 8.4%	237 19.6%	9 0.7%	86 7.1%	265 21.9%	1,208 -

6 子どもの病気の際の対応

(1) 病気のため、教育・保育事業又は学校を休んだことがあるか

就学前

就学(小学)

【未就学】(資料編P12)

子どもの病気で、教育・保育事業を利用できないことがあったかたずねたところ、「あった」が78.4%、「なかった」が21.6%であり、年齢2区分においてほとんど違いは見られない。

【就学（小学）】(資料編P44)

学校を休んだことの有無について、「あった」が69.1%、「なかった」が30.9%である。

・就学前

(単位:人, %)

	あった	なかった	合計
0～2歳	203 79.0%	54 21.0%	257 100.0%
3～5歳	423 78.2%	118 21.8%	541 100.0%
合計	626 78.4%	172 21.6%	798 100.0%

・就学(小学)

(単位:人, %)

	あった	なかった	合計
小1～3	437 71.1%	178 28.9%	615 100.0%
小4～6	412 67.1%	202 32.9%	614 100.0%
合計	849 69.1%	380 30.9%	1,229 100.0%

(2) 病児・病後児の保育の利用を希望するか

就学前

就学(小学)

【未就学】(資料編P13～14)

病児・病後児の保育の利用希望について、「利用する必要はない」が74.5%、「利用する必要がある」と答えたのは、25.5%となっている。

【就学（小学）】(資料編P46)

利用希望について、就学前よりも高い84.3%が「利用する必要はない」と答え、「利用する必要がある」と答えたのは、15.7%である。前問を含む2つの設問について、年齢（学年）の2区分での傾向に違いは見られない。

・就学前

(単位:人, %)

	利用する必要はない	利用する必要がある	合計
0～2歳	123 73.2%	45 26.8%	168 100.0%
3～5歳	236 75.2%	78 24.8%	314 100.0%
合計	359 74.5%	123 25.5%	482 100.0%

・就学(小学)

(単位:人, %)

	利用する必要はない	利用する必要がある	合計
小1～3	212 82.8%	44 17.2%	256 100.0%
小4～6	196 86.0%	32 14.0%	228 100.0%
合計	408 84.3%	76 15.7%	484 100.0%

7 不定期の「教育・保育事業」の利用や、宿泊を伴う一時預かり

(1) 現在の利用状況

就学前

就学(小学)

【未就学】（資料編P15）

不定期の「教育・保育事業」の利用や宿泊を伴う一時預かりの利用状況についてたずねたところ、「利用している」が15.4%、「利用していない」が84.6%であった。家族形態（3区分）でみると、「両親世帯」において、「幼稚園型一時預かり」の利用が53.1%と高い割合を示し、次いで「一般型一時預かり」（39.5%）、「ファミリーサポートセンター、緊急さぼねっと」（11.1%）となっている。

【就学（小学）】（資料編P47）

サービスの利用について、「利用していない」が97.7%、「利用している」は2.3%である。家族形態で見ると「ひとり親世帯」で8.6%と相対的には高い割合を示している。その種類については、「ファミリーサポートセンター、緊急さぼねっと」が48.1%、「トワイライトステイ」は14.8%となっている。

・就学前

一部【複数回答】（単位：人、％）

	利用している	一般型 一時預かり	幼稚園型 一時預かり	ファミサポ、 緊急さぼ	トワイライト ステイ	その他	利用してない	合計
両親世帯	162 16.4%	64 (39.5%)	86 (53.1%)	18 (11.1%)	1 (0.6%)	8 (4.9%)	827 83.6%	989 100.0%
ひとり親世帯	2 3.2%	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	60 96.8%	62 100.0%
その他	0 0.0%	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 100.0%	14 100.0%
合計	164 15.4%	65 (39.6%)	87 (53.0%)	18 (11.0%)	1 (0.6%)	8 (4.9%)	901 84.6%	1,065 100.0%

・就学（小学）

一部【複数回答】（単位：人、％）

	利用している	ファミサポ、 緊急さぼ	トワイライト ステイ	その他	利用してない	合計
両親世帯	16 1.5%	7 (43.8%)	1 (6.3%)	8 (50.0%)	1,031 98.5%	1,047 100.0%
ひとり親世帯	11 8.6%	6 (54.5%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	117 91.4%	128 100.0%
その他	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%	22 100.0%
合計	27 2.3%	13 (48.1%)	4 (14.8%)	10 (37.0%)	1,170 97.7%	1,197 100.0%

(2) 利用希望

就学前

就学(小学)

【未就学】（資料編P15）

不定期的に利用する事業の利用希望は、「利用する必要はない」が64.4%、「利用する必要がある」が35.6%である。
 どのようなときに利用するかについては、「私用、リフレッシュ」で58.4%と最も高い割合で、続く「冠婚葬祭、学校行事」が57.1%と半数を超え、「不定期の就労」が21.2%、「産前産後」が13.9%となっている。

【就学（小学）】（資料編P47）

「利用する必要はない」が89.1%、「利用する必要がある」が10.9%であり、一定の需要があることを示唆する結果である。利用する目的としては、「冠婚葬祭、学校行事」で64.8%と最も高く、「私用、リフレッシュ」が36.7%であった。

・就学前

一部【複数回答】（単位：人、％）

	利用する必要はない	利用する必要がある	私用、リフレッシュ	冠婚葬祭 学校行事	不定期の就労	産前産後	その他	合計
両親世帯	617 64.3%	343 35.7%	201 (58.6%)	195 (56.9%)	73 (21.3%)	49 (14.3%)	14 (4.1%)	960 100.0%
ひとり親世帯	40 67.8%	19 32.2%	10 (52.6%)	11 (57.9%)	4 (21.1%)	1 (5.3%)	2 (10.5%)	59 100.0%
その他	8 57.1%	6 42.9%	4 (66.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	14 100.0%
合計	665 64.4%	368 35.6%	215 (58.4%)	210 (57.1%)	78 (21.2%)	51 (13.9%)	16 (4.3%)	1,033 100.0%

・就学（小学）

一部【複数回答】（単位：人、％）

	利用する必要はない	利用する必要がある	私用、リフレッシュ	冠婚葬祭 学校行事	不定期の就労	その他	合計
両親世帯	921 89.9%	103 10.1%	34 (33.0%)	66 (64.1%)	30 (29.1%)	17 (16.5%)	1,024 100.0%
ひとり親世帯	100 81.3%	23 18.7%	13 (56.5%)	16 (69.6%)	11 (47.8%)	1 (4.3%)	123 100.0%
その他	20 90.9%	2 9.1%	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	22 100.0%
合計	1,041 89.1%	128 10.9%	47 (36.7%)	83 (64.8%)	41 (32.0%)	19 (14.8%)	1,169 100.0%

8 地域の子育て支援事業(地域子育て支援センター)

(1) 現在の利用状況と利用希望

就学前

【未就学】(資料編P17, 18)

地域子育て支援センターの利用状況は、「利用している」が17.2%、「利用していない」が82.8%である。家族形態別にみると、「ひとり親世帯」の利用率（利用している＝4.3%）が、他の家族形態と比べて低い。

利用希望については、「新たな利用や日数増の希望はない」が最も高い割合で72.8%であり、「新たに利用したい」意向は18.0%、「利用日数を増やしたい」回答者は9.2%となっている。家族形態別に見ると、「両親世帯」において、利用日数増の希望がみられる。

・利用状況

(単位:人, %)

	利用している	利用していない	合計
両親世帯	191 18.2%	861 81.8%	1,052 100.0%
ひとり親世帯	3 4.3%	67 95.7%	70 100.0%
その他	2 13.3%	13 86.7%	15 100.0%
合計	196 17.2%	941 82.8%	1,137 100.0%

・利用希望

(単位:人, %)

	新たな利用や 日数増の希望 はない	新たに利用し たい	利用日数を 増やしたい	合計
両親世帯	723 72.4%	180 18.0%	96 9.6%	999 100.0%
ひとり親世帯	52 78.8%	13 19.7%	1 1.5%	66 100.0%
その他	11 78.6%	1 7.1%	2 14.3%	14 100.0%
合計	786 72.8%	194 18.0%	99 9.2%	1,079 100.0%

9 特別の支援の必要性

(1) 子どもの心身の成長に関する不安感

就学前

【就学前】(資料編P18)

子どもの心身の成長に関する不安について、全体では68.7%が「不安はない」と答え、何らかの不安があるとした回答では、「情緒面」(14.9%)、「落ち着き」(10.8%)、「言葉の面」(7.0%)であった。

年齢3区分でみると、「0～1歳」では、77.4%が「不安はない」としているが、「情緒面」の不安が9.4%、「落ち着き」に関する不安が6.2%、そして「言葉の面」が5.9%となっている。また、「2～3歳」では、63.8%が「不安はない」としているが、「情緒面」(18.8%)、「落ち着き」(12.1%)、「言葉の面」(9.7%)などは、他の年齢区分と比較してやや高い割合を示す。「4～5歳」では、65.6%が「不安はない」と答えたが、「情緒面」(16.1%)、「落ち着き」(13.9%)が高い割合である。

【複数回答】(単位:人, %)

	コミュニケーション	落ち着き	情緒面	運動面	言葉の面	その他	不安はない	合計
0～1歳	13 3.8%	21 6.2%	32 9.4%	19 5.6%	20 5.9%	21 6.2%	263 77.4%	340 -
2～3歳	20 5.4%	45 12.1%	70 18.8%	16 4.3%	36 9.7%	17 4.6%	238 63.8%	373 -
4～5歳	18 4.9%	51 13.9%	59 16.1%	17 4.6%	20 5.5%	21 5.7%	240 65.6%	366 -
合計	51 4.7%	117 10.8%	161 14.9%	52 4.8%	76 7.0%	59 5.5%	741 68.7%	1,079 -

10 児童センター

(1) 現在の利用状況と利用希望

就学(小学)

【就学（小学）】（資料編P48, 49）

児童センターの利用有無について、「利用しない」が90.3%、「平日に利用」(5.0%)、「土曜に利用」(2.9%)、「平日も土曜も利用」(1.8%)をあわせて9.7%が利用しているとの回答である。

児童センターの利用意向では、「利用希望なし」が61.4%、「平日も土曜も利用」が17.2%、「平日に利用」が15.5%であり、いずれの学年においても平日・土曜の利用希望が一定程度存在することをうかがわせる。

・利用状況

(単位: 人, %)

	平日も土曜も 利用	平日に利用	土曜に利用	利用しない	合計
小1～2	9 2.2%	27 6.7%	10 2.5%	359 88.6%	405 100.0%
小3～4	10 2.4%	20 4.8%	12 2.9%	372 89.9%	414 100.0%
小5～6	3 0.8%	14 3.6%	13 3.3%	364 92.4%	394 100.0%
合計	22 1.8%	61 5.0%	35 2.9%	1,095 90.3%	1,213 100.0%

・利用希望

(単位: 人, %)

	平日も土曜も 利用	平日に利用	土曜に利用	日曜に利用	利用希望なし	合計
小1～2	75 19.2%	76 19.5%	19 4.9%	12 3.1%	208 53.3%	390 100.0%
小3～4	71 17.7%	67 16.7%	12 3.0%	8 2.0%	243 60.6%	401 100.0%
小5～6	57 14.7%	40 10.3%	10 2.6%	8 2.1%	272 70.3%	387 100.0%
合計	203 17.2%	183 15.5%	41 3.5%	28 2.4%	723 61.4%	1,178 100.0%

11 地域活動への参加

(1) 現在の参加状況と参加希望

就学(小学)

【就学（小学）】（資料編P50）

地域活動への参加の有無について、全体の42.2%が「参加させたことがなく、今後も予定はない」と回答している。「参加したことがある」は36.9%で、「参加させたことがなく、今後参加させたい」は20.8%である。学年3区分で見ると、「小3～4」で43.6%が「参加したことがある」と回答しているが、いずれの学年においても「今後も予定はない」との回答が4割程度見られる。

さらに、「参加させたことがある、または今後参加させたい地域活動」については、「スポーツ活動」(58.3%)がいずれの学年区分でも最も高い割合を示し、全体では「文化・音楽活動」(39.9%)、「野外活動」(37.1%)、「青少年団体活動」(36.6%)の順となっている。「小1～2」では「スポーツ活動」(65.5%)が、「小5～6」では「社会福祉活動」(20.9%)が他の学年と比べて高い。

・参加状況

(単位: 人, %)

	参加したことがある	参加させたことがなく、今後参加させたい	参加させたことがなく、今後予定はない	合計
小1～2	119 29.4%	115 28.4%	171 42.2%	405 100.0%
小3～4	182 43.6%	76 18.2%	159 38.1%	417 100.0%
小5～6	149 37.5%	63 15.9%	185 46.6%	397 100.0%
合計	450 36.9%	254 20.8%	515 42.2%	1,219 100.0%

・参加希望

【複数回答】(単位: 人, %)

	スポーツ活動	文化・音楽活動	野外活動	社会福祉活動	国際交流活動	青少年団体活動	社会貢献活動	その他	合計
小1～2	152 65.5%	90 38.8%	91 39.2%	27 11.6%	34 14.7%	77 33.2%	51 22.0%	12 5.2%	232 —
小3～4	143 55.6%	101 39.3%	93 36.2%	33 12.8%	35 13.6%	95 37.0%	62 24.1%	11 4.3%	257 —
小5～6	113 53.6%	88 41.7%	76 36.0%	44 20.9%	39 18.5%	84 39.8%	56 26.5%	16 7.6%	211 —
合計	408 58.3%	279 39.9%	260 37.1%	104 14.9%	108 15.4%	256 36.6%	169 24.1%	39 5.6%	700 —

12 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

(1) 子どもが生まれたときに育児休業を取得したか

就学前

【就学前】（資料編P20）

母親に対して育児休業の取得状況について、半数が「働いていなかった」と回答したが、36.6%が「取得した又は取得中」と答えている。一方、13.4%が「取得していない」と回答し、その理由をたずねたところ、「子育てに専念するために退職した」が45.8%で最も高い割合であり、次いで「職場に育休の制度がなかった」（20.3%）、「取得しにくい雰囲気」（17.0%）となっている。

父親では、「取得していない」96.5%で、「取得した又は取得中」は2.7%にとどまり、取得していない理由については、「仕事が忙しい」が39.3%で最も高い割合であり、次いで「制度を利用する必要がなかった」が34.2%、「収入減で経済的に苦しい」が31.1%、「取得しにくい雰囲気」が30.5%である。

これらの結果から、育児休業のとりづらさや仕事を休みことによる経済的損失のリスクもあり、育児と仕事の両立支援が十分には進んでいない状況がうかがえる。

一部【複数回答】（単位：人、％）

	働いていなかった	取得した又は取得中	取得していない	取得しにくい雰囲気	仕事が忙しい	仕事に早く復帰したい	仕事に戻るのが難しい	昇級・昇格が遅れそう	収入減で経済的に苦しい	保育所などに預けた
母親	573 (50.0%)	420 (36.6%)	153 (13.4%)	26 (17.0%)	15 (9.8%)	10 (6.5%)	9 (5.9%)	1 (0.7%)	11 (7.2%)	8 (5.2%)
父親	9 (0.9%)	28 (2.7%)	1,019 (96.5%)	311 (30.5%)	400 (39.3%)	2 (0.2%)	23 (2.3%)	47 (4.6%)	317 (31.1%)	21 (2.1%)

一部【複数回答】（単位：人、％）

	配偶者が育児休業を取得した	制度を利用する必要がなかった	子育てに専念するため退職	職場に育休の制度がなかった	育休の取得要件を満たさなかった	育児休業を知らなかった	産前産後の休暇を知らずに退職	その他	合計
母親	0 (0.0%)	8 (5.2%)	70 (45.8%)	31 (20.3%)	13 (8.5%)	4 (2.6%)	4 (2.6%)	28 (18.3%)	1,146 (100.0%)
父親	257 (25.2%)	349 (34.2%)	4 (0.4%)	118 (11.6%)	6 (0.6%)	19 (1.9%)	0 (0.0%)	59 (5.8%)	1,056 (100.0%)

13 子育てに関する悩みや不安感

(1) 子育てに関して不安を感じているか

就学前

就学(小学)

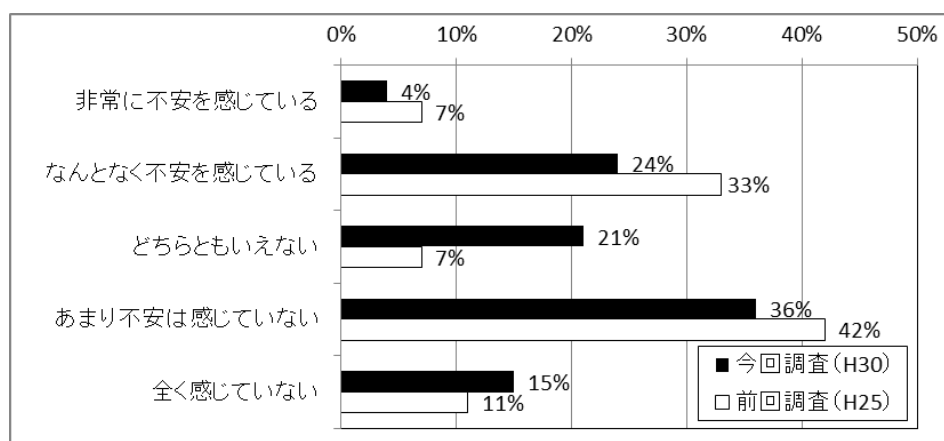
【就学前】（資料編P22）

子育てに関して不安を感じているかについて、「あまり不安を感じていない」が36%と高い割合を示し、「全く感じていない」(15%)とあわせて、前回調査（平成25年調査）と同じく、半数程度の回答者が不安を感じていないと回答している。

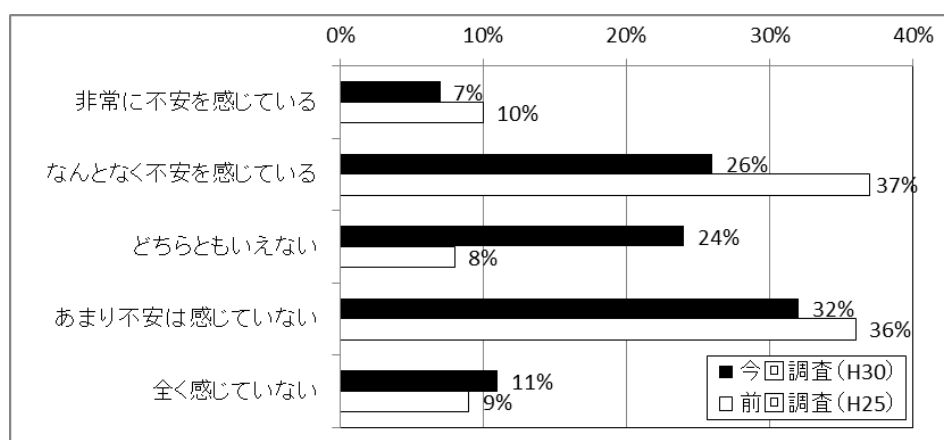
【就学（小学）】（資料編P50）

「あまり不安を感じていない」が32%と最も高く、「全く感じていない」(11%)とあわせて、43%の回答者が不安を感じていないと回答した。一方、不安を感じている（「非常に」＋「なんとなく」）は33%であり、前回調査より大幅に低下している。就学前を含め、今回の調査では中間項目である「どちらともいえない」への回答が、就学前と同様に前回調査の3倍程度になっている。

・就学前



・就学(小学)



(2) 子育てに関して悩んでいること(子どものこと)

就学前

就学(小学)

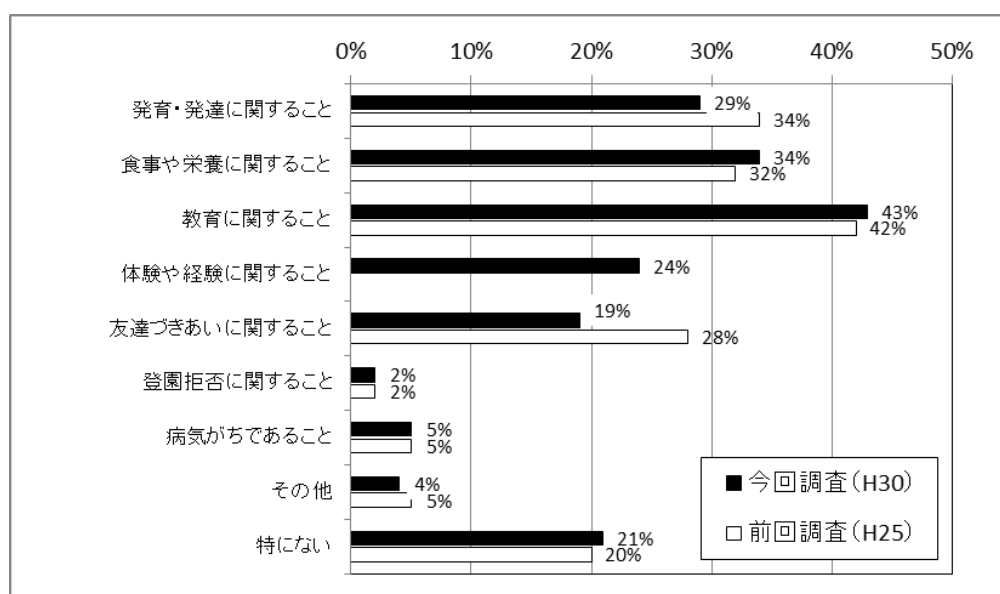
【就学前】(資料編P22)

「子どものこと」では、「教育に関すること」が43%で最も高い。
今回の調査では「体験や経験に関すること」の項目を新たに加えたが、24%が該当すると答えている。

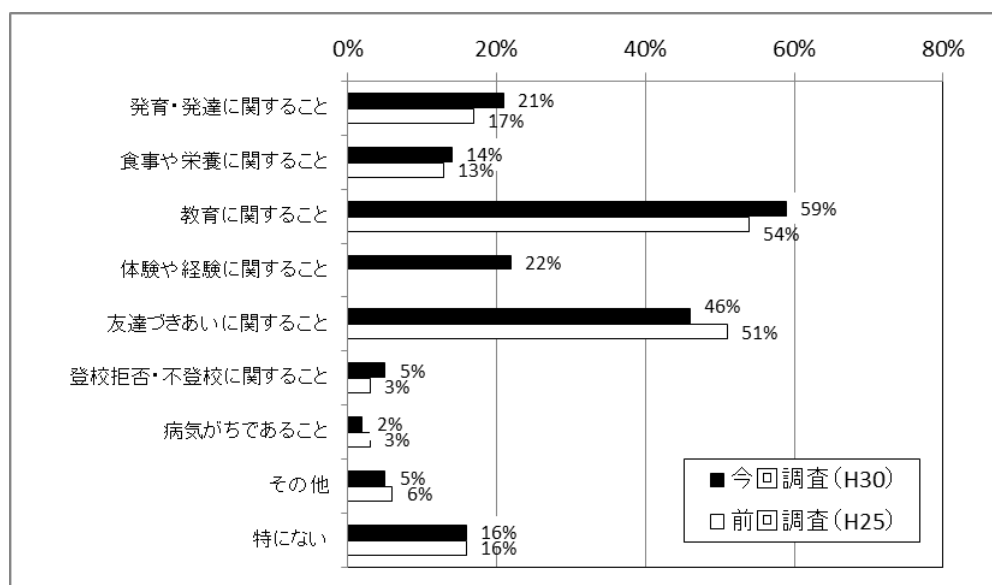
【就学（小学）】(資料編P51)

「教育に関すること」が59%で最も高く、次いで「友達づきあいに関すること」が46%であった。就学前と同じく、「体験や経験に関すること」の項目を新たに加えたところ、22%が該当すると答えている。

・就学前



・就学(小学)



(3) 子育てに関して悩んでいること(自分のこと)

就学前

就学(小学)

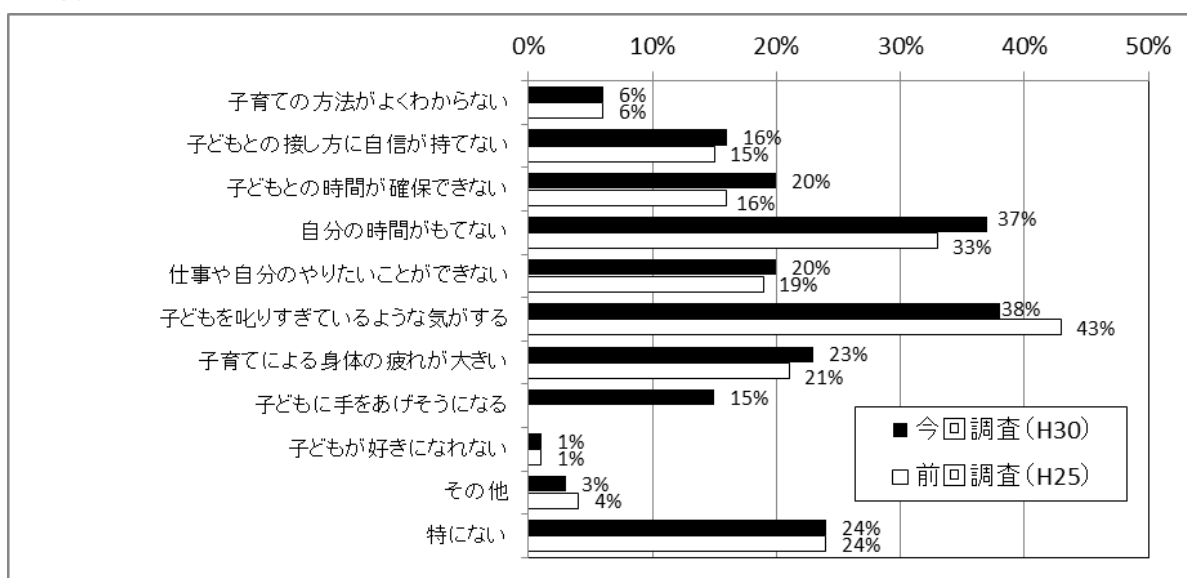
【就学前】(資料編P22)

「自分のこと」では、「子どもを叱りすぎているような気がする」が38%、「自分の時間が持てない」が37%で高い割合を示している。この「自分の時間が持てない」(37%)と「子どもとの時間が覚悟できない」(20%)が前回調査より4%程度増加している。

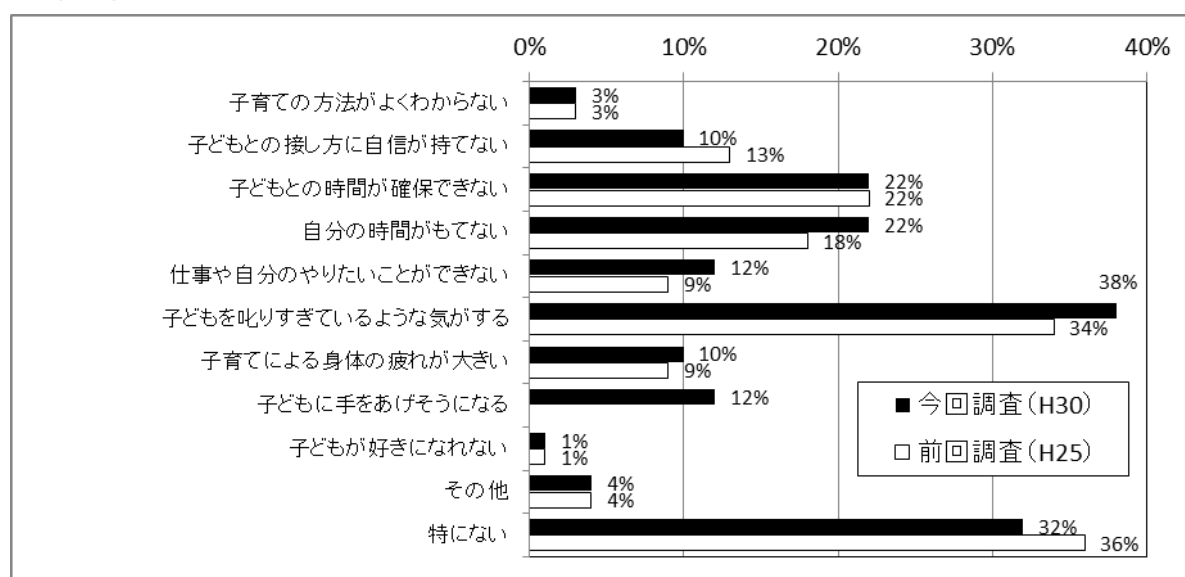
【就学（小学）】(資料編P51)

「子どもを叱りすぎているような気がする」が前回調査よりも4%高く38%、「特にない」が4%低下して32%である。「子どもとの時間が確保できない」「自分の時間が持てない」は、「ひとり親世帯」において3割を超えている。

・就学前



・就学(小学)



(4) 子育てに関して悩んでいること(家庭のこと)

就学前

就学(小学)

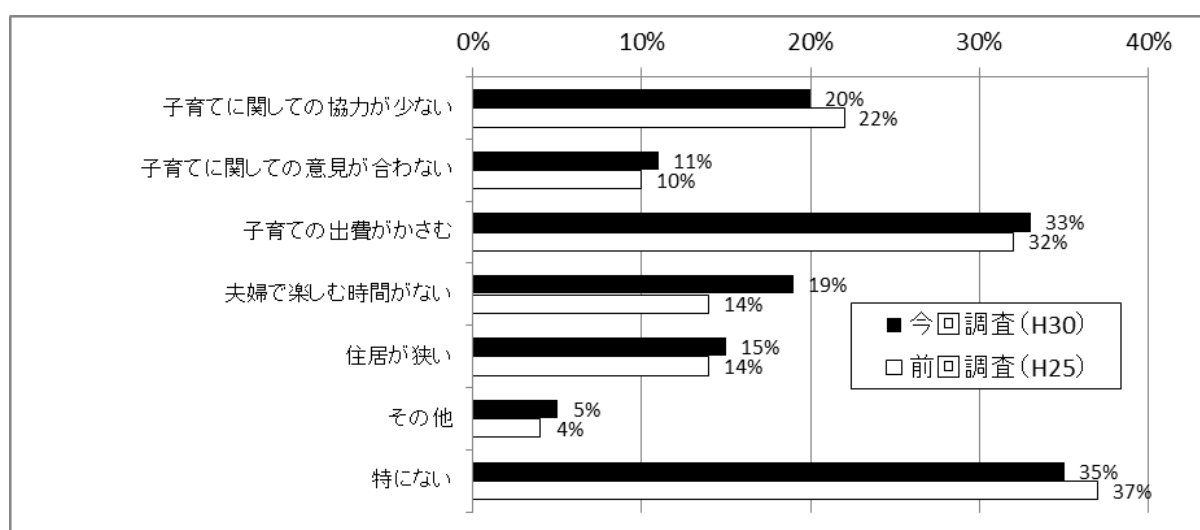
【就学前】(資料編P22)

「家庭のこと」では、「子育ての出費がかさむ」が33%と前回調査とほぼ同じ値となっており、表に掲出していないが、ひとり親世帯では38%の回答となっている。また、「夫婦で楽しむ時間がない」が両親世帯で21%となっており、両親世帯では2番目に高い割合である。

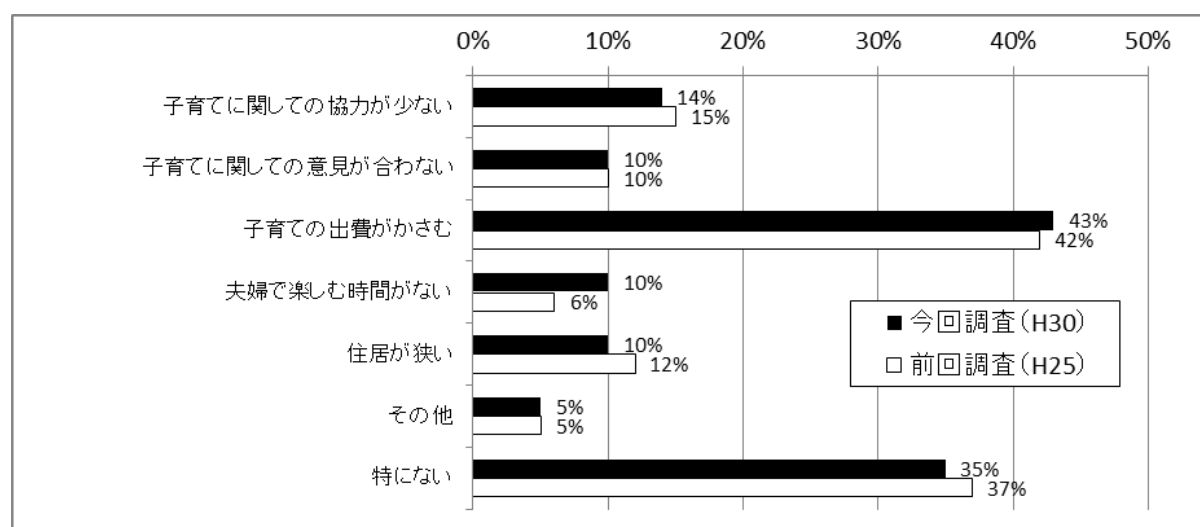
【就学（小学）】(資料編P51)

「子育ての出費がかさむ」が43%と前回調査とほぼ同じである。これについて、ひとり親世帯では53%が選択しており、ひとり親世帯の経済的な負担感をうかがわせる。

・就学前



・就学(小学)



(5) 子育てに関して悩んでいること(家庭以外のこと)

就学前

就学(小学)

【就学前】(資料編P23)

「家庭以外のこと」では、「特にない」が65%で前回調査と同じく最も高い割合である。

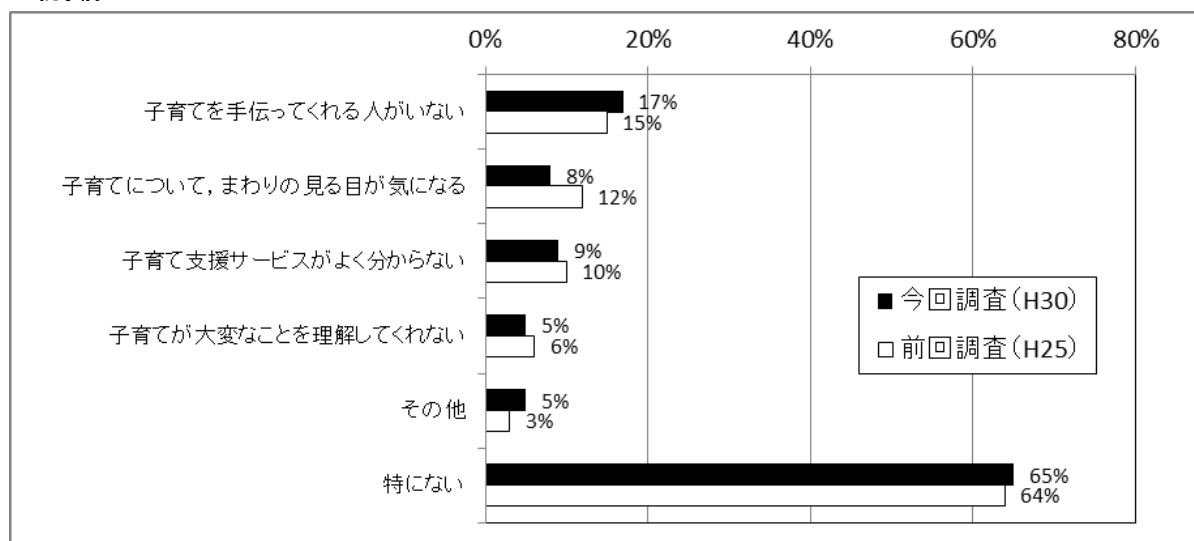
一方で「子育てを手伝ってくれる人がいない」が17%で前回調査より若干ではあるが割合が高くなっている（両親世帯：18%，ひとり親世帯：4%）。

【就学（小学）】(資料編P51)

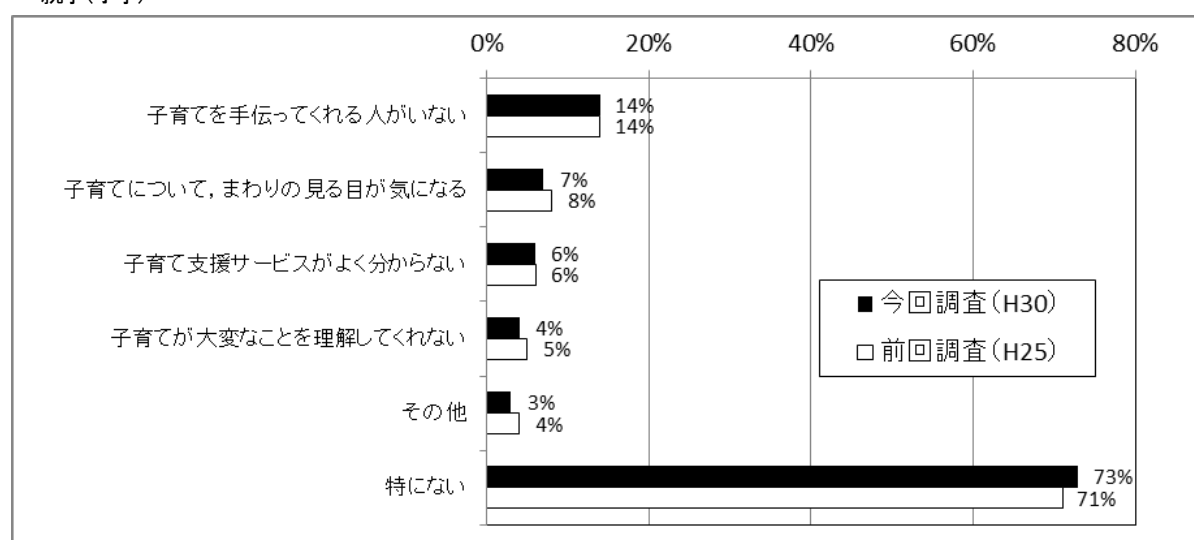
「特にない」が73%で前回調査よりも増加し、最も高い割合となった。

ひとり親世帯が「特にない」と回答した割合は60%であり、「子育てについて、まわりの見目が気になる」が全体平均（7%）の2倍の値（14%）を示している。

・就学前



・就学(小学)



(6) 子育てに関して悩んでいること(相談先)

就学前

就学(小学)

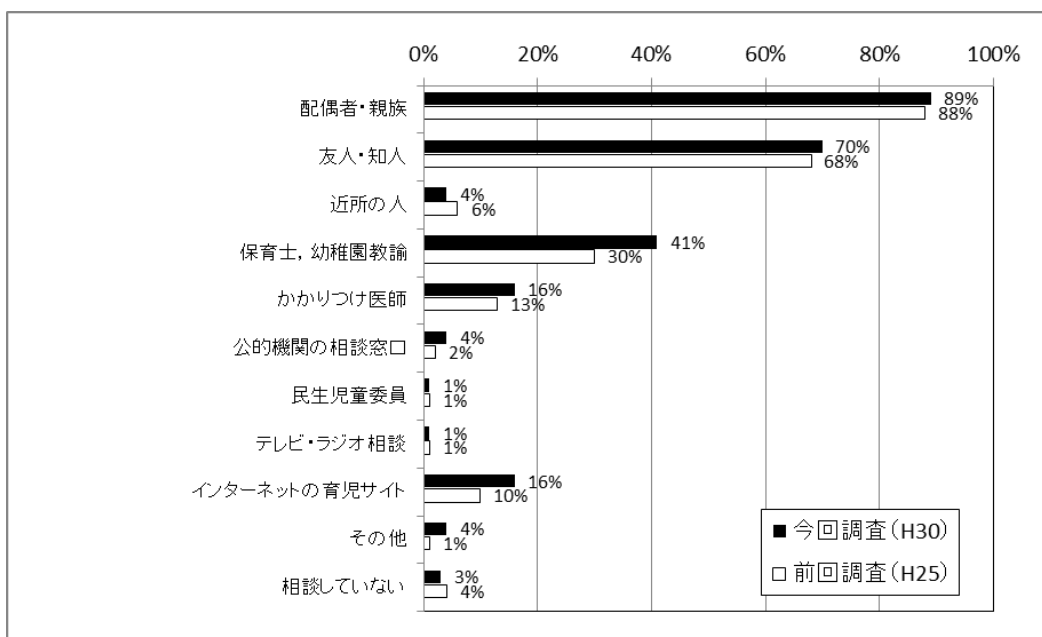
【就学前】(資料編P23)

相談先で最も高い割合を示したのは「配偶者・親族」で89%，次いで「友人・知人」70%，「保育士，幼稚園教諭」が前回調査より大幅に上昇し41%となっている。

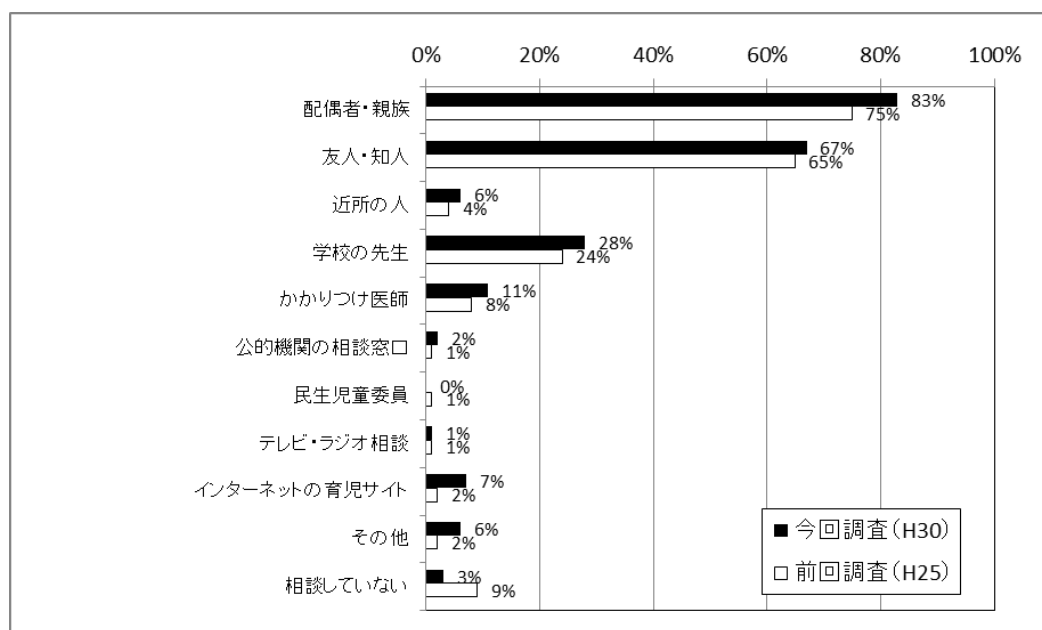
【就学（小学）】(資料編P52)

相談先で最も高い割合を示したのは，就学前と同じく「配偶者・親族」で83%，次いで「友人・知人」67%，「学校の先生」は28%である。「相談していない」は3%にとどまっている。

・就学前



・就学(小学)



(7) 相談していない理由

就学前

就学(小学)

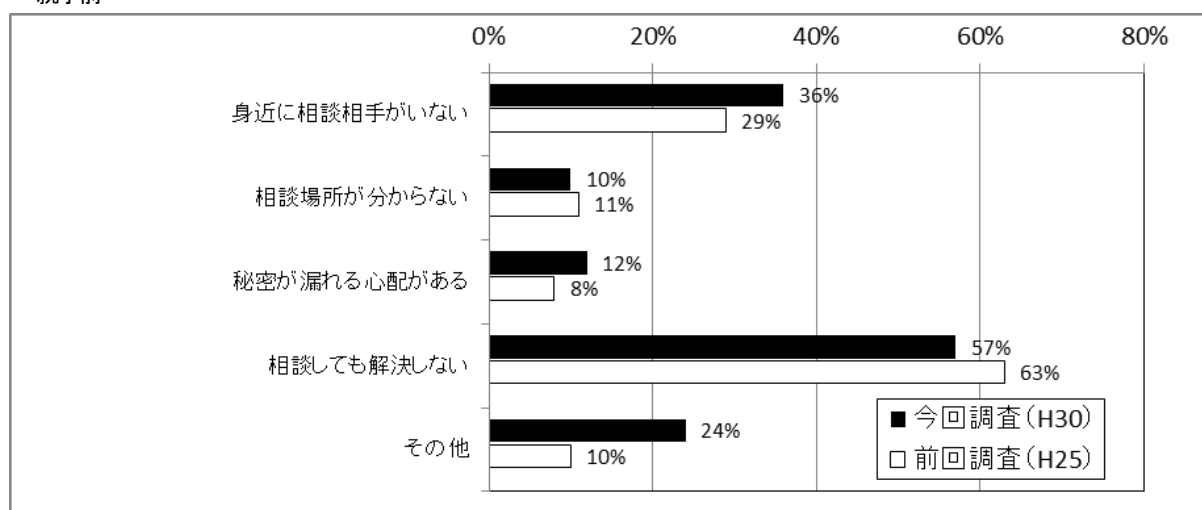
【就学前】（資料編P24）

前問で「相談していない」と回答した方に対し、その理由を答えてもらったところ、「相談しても解決しない」が57%で前回調査よりも割合は低下したが今回最も高い。「身近に相談相手がいない」が36%で前回調査よりも7%高い。

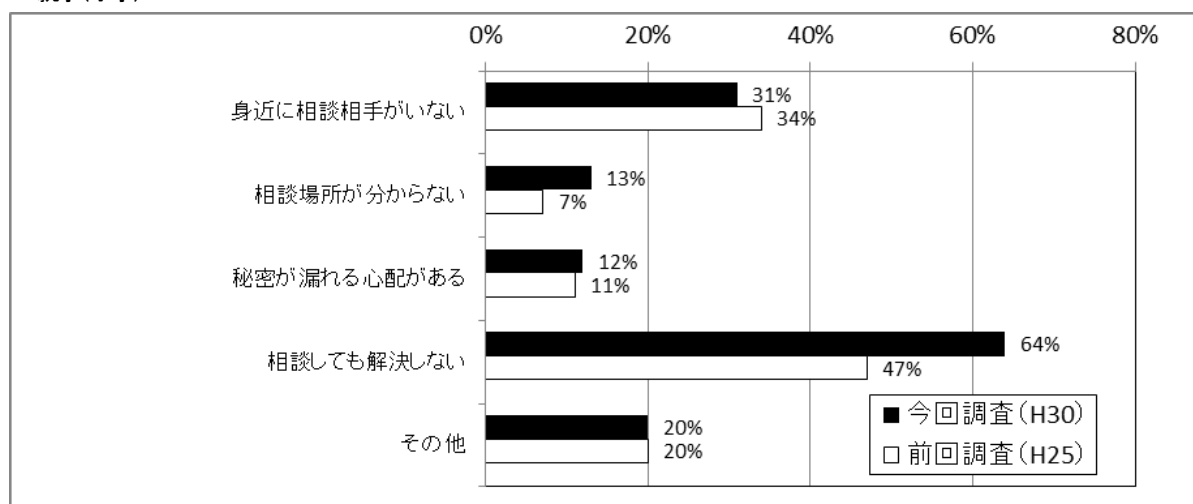
【就学（小学）】（資料編P53）

「相談しても解決しない」が64%で前回調査より大幅に増加している。次いで「身近に相談相手がいない」が31%であるが、前回調査よりもやや低下している。

・就学前



・就学(小学)



(8) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P25）

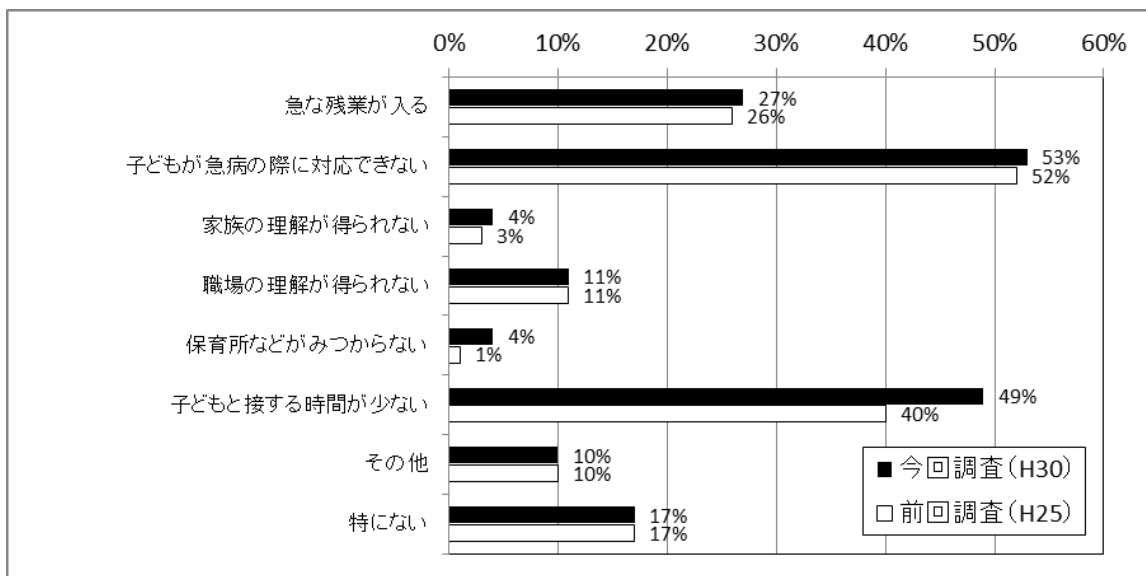
仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることは、「子どもが急病の際に対応できない」が53%で最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ない」が49%となっており、前回調査よりも9%上昇している。

ひとり親世帯では、「子どもと接する時間が少ない」に68%の回答があったことや、「職場の理解が得られない」に21%の回答があったことから、特に両立しやすい環境の必要性をうかがわせる。

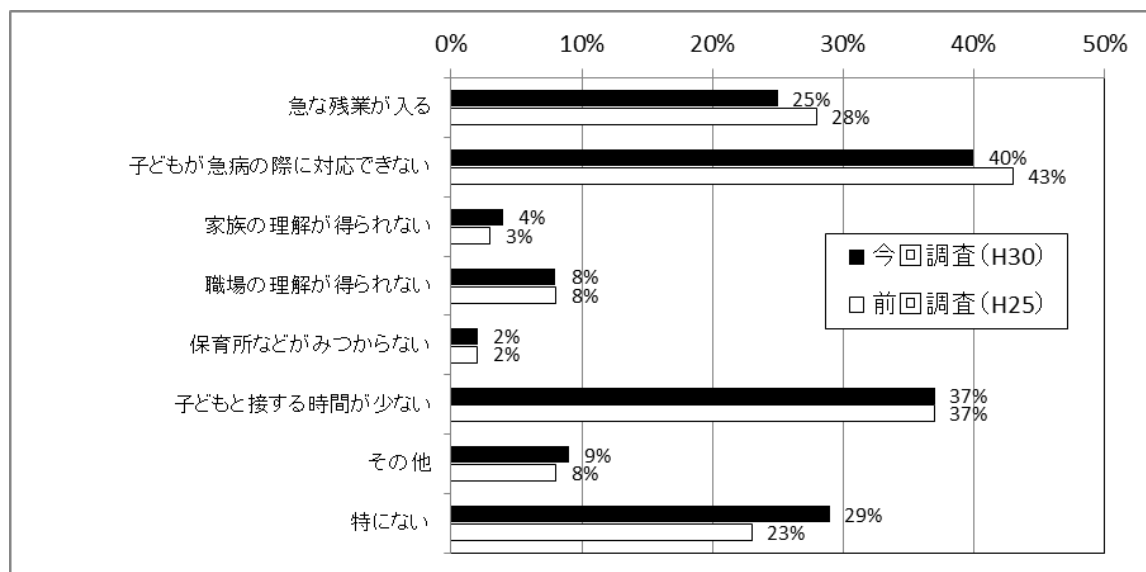
【就学（小学）】（資料編P53）

「子どもが急病の際に対応できない」が40%で最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ない」が37%となっており、前回調査とほぼ同じ値を示している。

・就学前



・就学(小学)



14 子育てに関するサービス・活動の認知度と利用意向

(1) 子育てに関するサービスの利用度と利用意向

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P25～30）

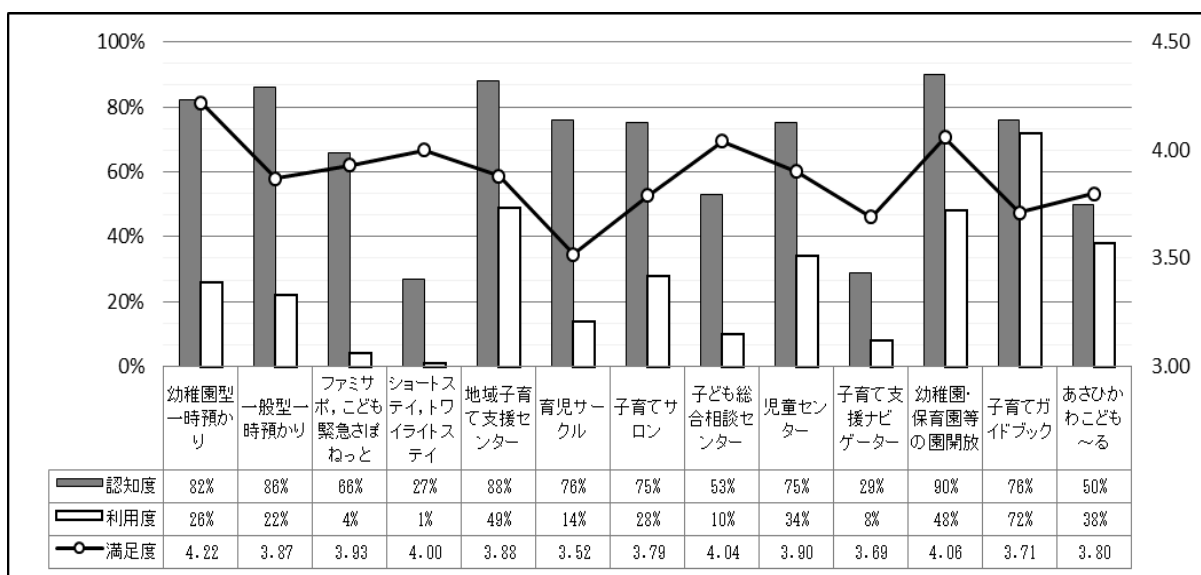
子育てに関するサービス・活動の認知度と利用意向についてたずねた。

まず、認知度は「幼稚園・保育園等の園開放」の認知度が最も高く 90%、利用度は「子育てガイドブック（読んだことがある）」が最も高く 72%である。利用した方の満足度（5段階評定）については、「幼稚園型一時預かり」が 4.22 で最も高く、一方で「育児サークル」が 3.52 と低かったが、中間値 3 を上回っており、本調査で示した子育てに関するサービスの利用者の満足度は概ね高いといえる。

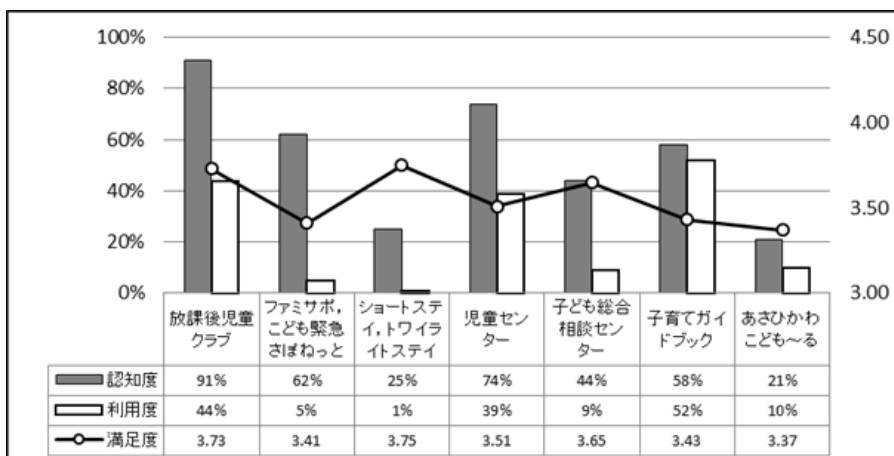
【就学（小学）】（資料編P54～56）

認知度は「放課後児童クラブ」の認知度が最も高く 91%、利用度は「子育てガイドブック（読んだことがある）」が最も高く 52%である。利用した方の満足度については、「ショートステイ、トワイライトステイ」の利用率は 1%ではあるが、最も高い満足度（3.75）である。一方で、「あさひかわこども〜」が 3.37 と低かったが、こちらも就学前と同じく、中間値（3）を上回っている。

・就学前



・就学(小学)



(2) 子育てに関する活動の利用度と利用意向

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P30～31）

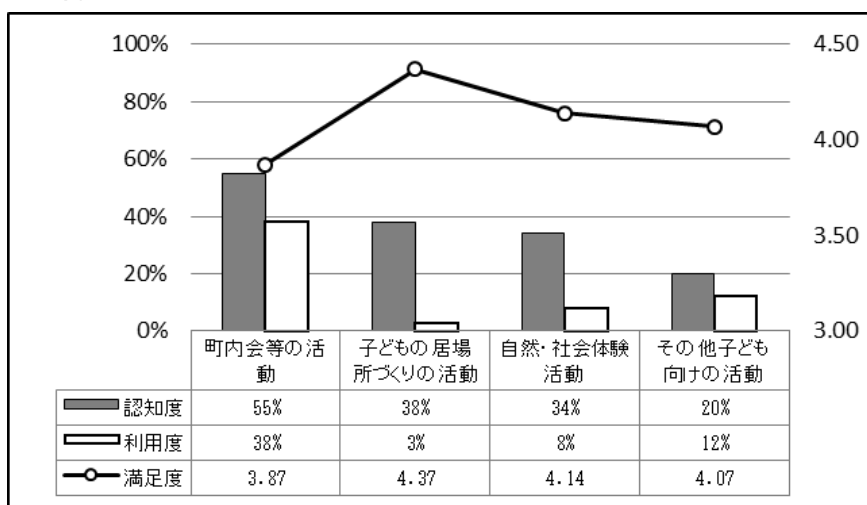
地域等で実施されている子育て支援・子どもの健全育成に関する活動についてたずねた。

認知度・利用度が最も高かったのは「町内会等の活動」（認知度：55%，利用度：38%）であり，満足度が最も高かったのは，「子どもの居場所づくりの活動」（4.37）となっている。

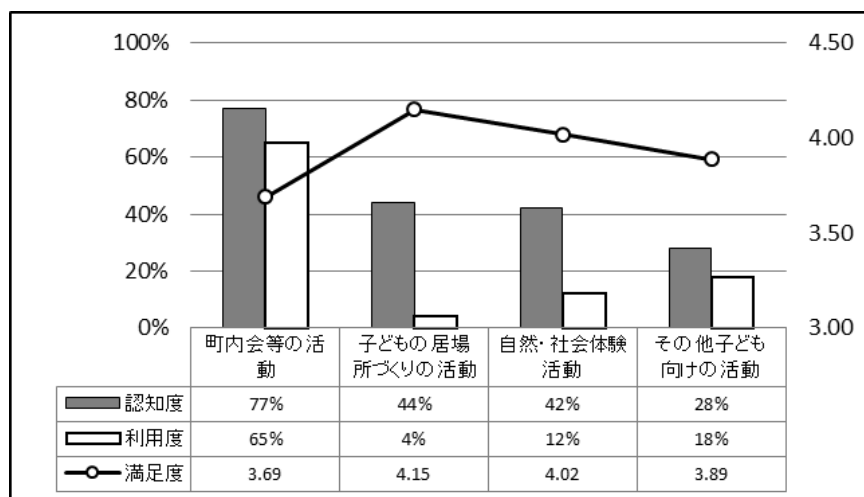
【就学（小学）】（資料編P56～58）

認知度・利用度が最も高かったのは「町内会等の活動」（認知度：77%，利用度：65%）で，満足度が最も高かったのは，利用率は4%であるが「子どもの居場所づくりの活動」（4.15）である。

・就学前



・就学(小学)



15 旭川市で子育てを行っている中での満足度

(1) 満足度(保護者の視点, 子どもの視点)

就学前

就学(小学)

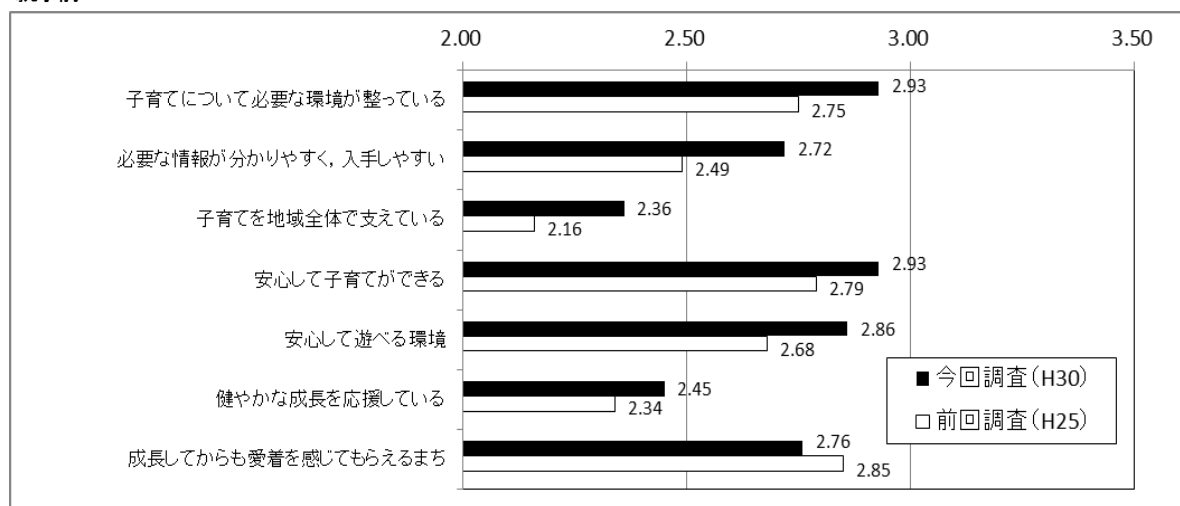
【就学前】(資料編P31～34)

子育てを行っている中での満足度について、保護者の視点、子どもの視点あわせて7項目の設問を設定した(本設問も5段階評定、中間値は3点)ところ、7項目中6項目で前回調査を0.11～0.23点上回っている。今回最も高い点数だったのは「子育てについて必要な環境が整っている」、「安心して子育てができる」で2.93点であり、「成長してからも愛着を感じてもらえるまち」については、前回調査より0.09点下回っている。

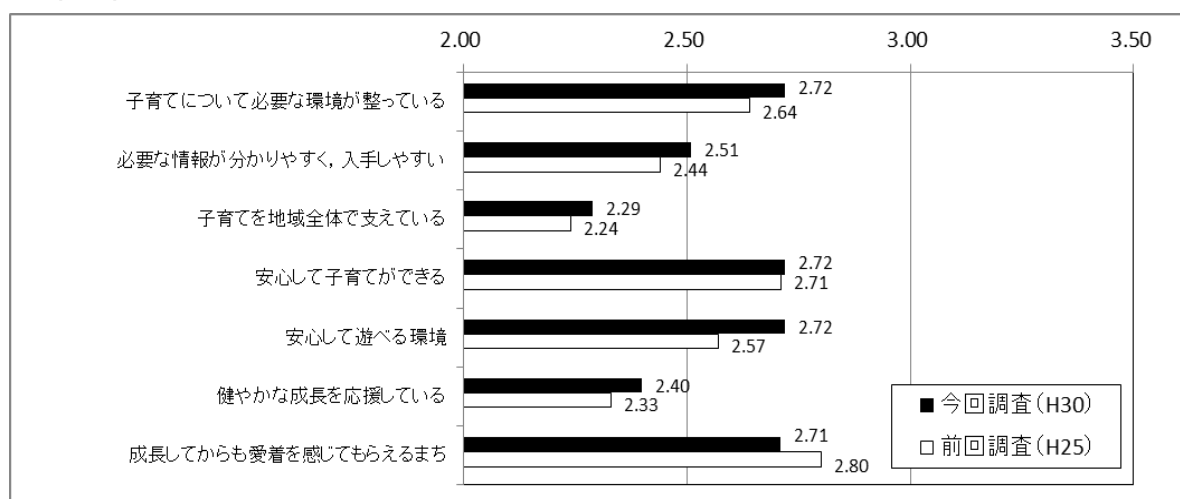
【就学(小学)】(資料編P58～60)

7項目中6項目で前回調査を0.01～0.15点上回っており、最も高い点数だったのは「子育てについて必要な環境が整っている」「安心して子育てができる」「安心して遊べる環境」の3項目で、いずれも2.72点である。「成長してからも愛着を感じてもらえるまち」については、就学前と同じく前回調査より0.09点下回っている。図では掲出していないが、家族形態別にみると「ひとり親世帯」において特に満足度が低い。

・就学前



・就学(小学)



16 子育てに関する行政サービスへの要望

(1) 子育て支援環境の充実のために、どのような支援策が望ましいか

就学前

就学(小学)

【就学前】（資料編P34）

子育て支援環境の充実のために望ましい支援策について、選択肢から選んでいただいた。

要望が最も多かったのは「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」の83%で、前回調査よりおよそ30%程度上昇し、次に「医療費の負担軽減」(64%)、「認可保育所の費用軽減」(45%)と経済的負担の軽減を求める項目が続き、「職場環境の改善」は40%で大幅に上昇している。

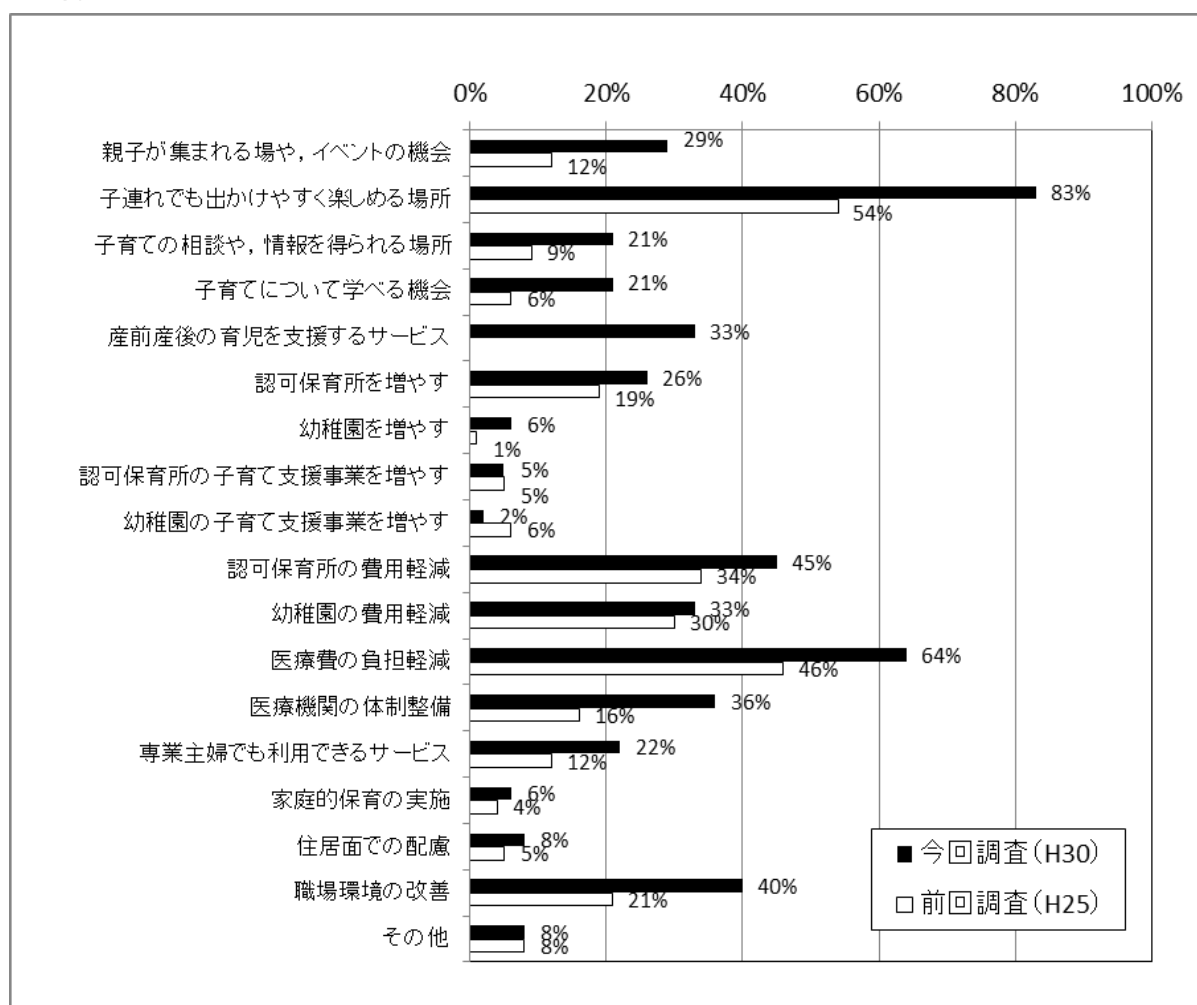
また、今回新たに「産前産後の育児を支援するサービス」を選択肢として設けたところ、33%の回答があった。

【就学（小学）】（資料編P61）

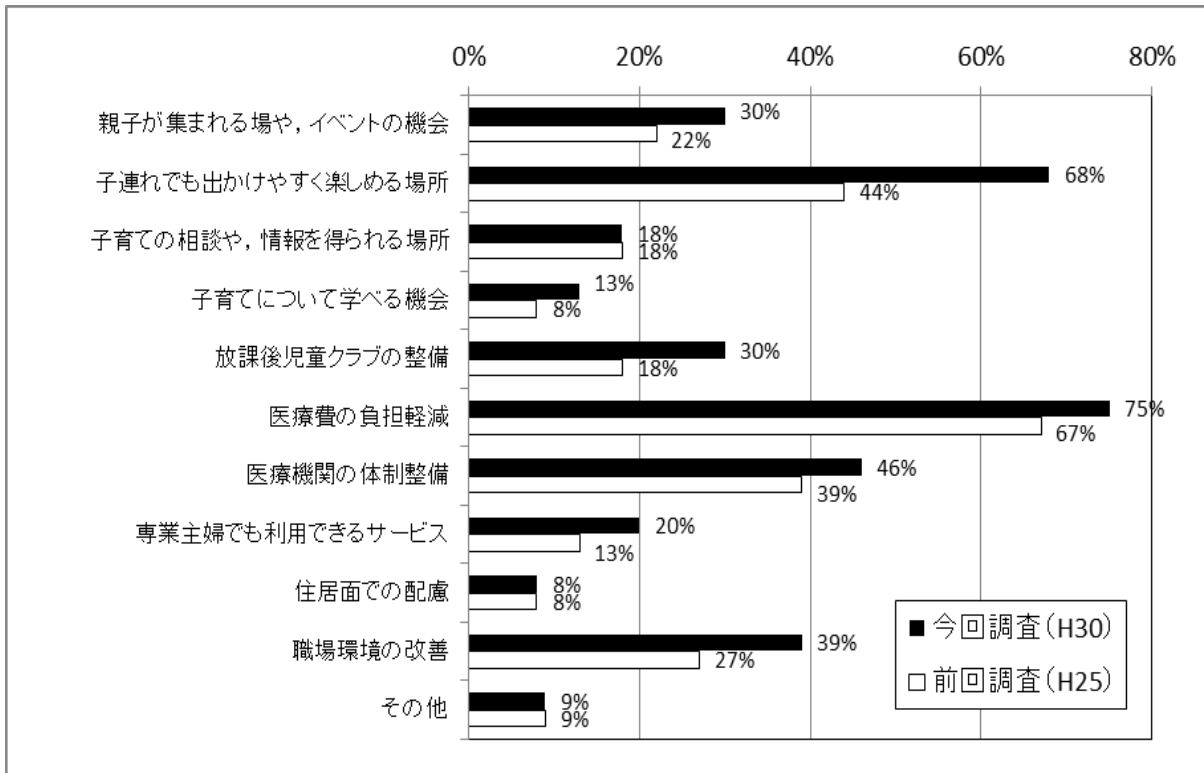
「医療費の負担軽減」が75%と最も多く、前回調査より8%上昇している。

次に「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」(68%)、「医療機関の体制整備」(46%)が続いた。また、「職場環境の改善」が39%で前回調査より大幅に上昇している。

・就学前



・就学(小学)



調査結果

（ひとり親世帯（父子）の保護者）

1 基本属性

(1) 子どもの年齢（H30.10 現在）

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P64）

子どもの年齢は、高校生の年齢層に相当する「15～17歳」が35.1%で最も多く、次いで「9～11歳」が32.4%であり、両年齢層でおよそ3分の2を占めた。

（単位：人、％）

0～2歳	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15～17歳	合計
1	0	3	12	8	13	37
2.7%	0.0%	8.1%	32.4%	21.6%	35.1%	100.0%

(2) 家族形態

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P64）

ひとり親世帯のうち、およそ3分の1は祖父母と同居する3代同居の世帯であった。

※調査において、男性の世帯主と18歳未満の子による世帯を抽出しており、他の家族形態も若干数含まれた

（単位：人、％）

父子世帯	祖父母同居の父子世帯	両親世帯	祖父母同居の両親世帯	祖父母と子どものみの世帯	その他	合計
25	12	1	0	0	1	39
64.1%	30.8%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%	100.0%

2 養育費の受取りと面会交流

(1) 養育費と面会交流の実施

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P65）

養育費の受取りと面会交流の実施状況をたずねたところ、離別によりひとり親となった世帯について、「養育費を受けたことがない」が83.3%で、離婚の際に、「話し合い自体していない」が30.0%、「取り決めをしていない」が26.7%であった。また、「面会交流を実施している」は62.1%であり、「面会交流を実施している」を大きく上回った。

・養育費の受取り

（単位：人、％）

定期的に受けている	不定期に受けている	現在は受けていない	受けたことがない	その他	合計
2	0	2	25	1	30
6.7%	0.0%	6.7%	83.3%	3.3%	100.0%

・面会交流の実施

（単位：人、％）

実施している	実施していない	合計
11	18	29
37.9%	62.1%	100.0%

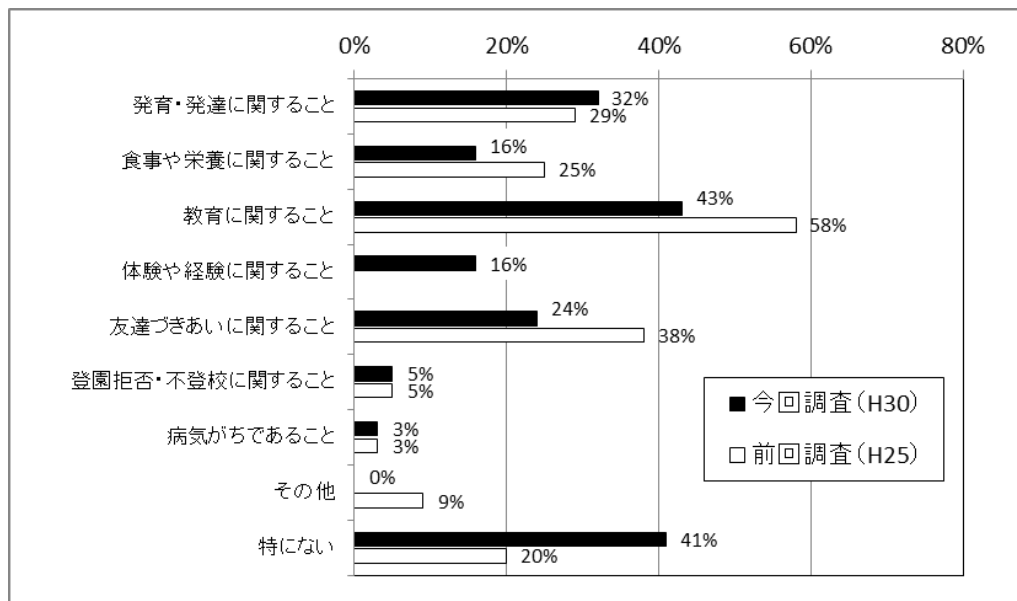
3 子育てに関する悩みや不安感

(1) 子育てに関して悩んでいること(子どものこと)

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P66）

「特にない」が41%であり、前回調査と比較すると、子どものことに関する悩みが全体的に減少している。



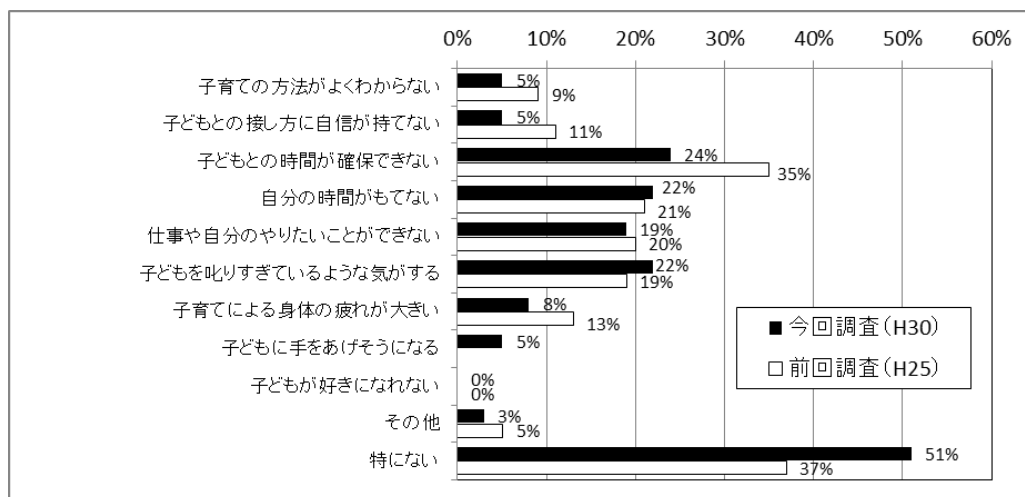
(2) 子育てに関して悩んでいること(自分のこと)

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P66）

「特にない」が51%であり、回答者の半数は自分についての悩みが比較的少ない。

ただし、「自分の時間がもてない」「自分のやりたいことができない」「子どもを叱りすぎている」は、前回調査から大きな変化はなく、20%前後で推移している。

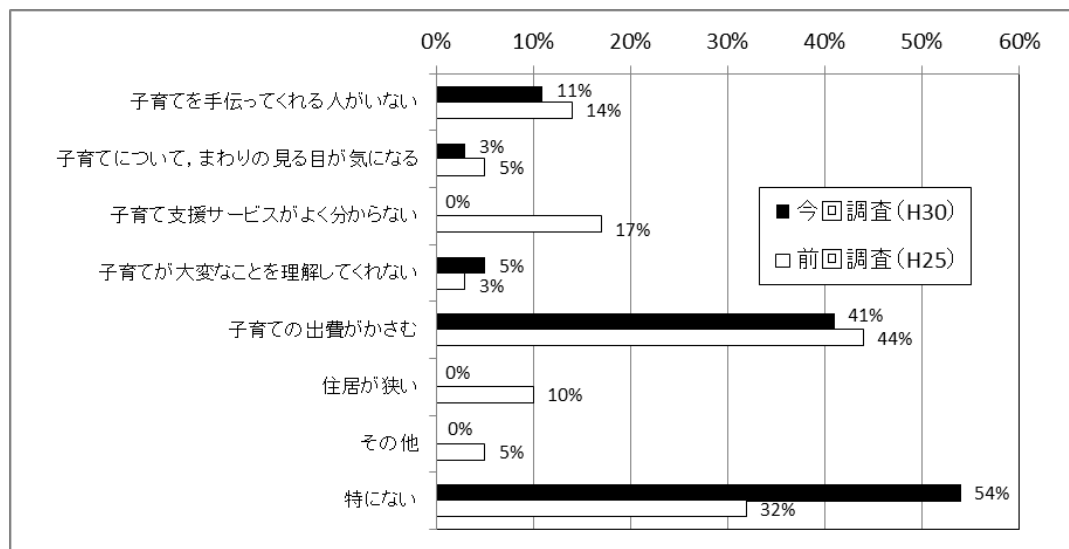


(3) 子育てに関して悩んでいること(家庭のこと)

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】(資料編P66)

「特にない」が54%と大きく増加したが、他の家族類型と同様に、「子育ての出費がかさむ」は41%と前回調査と同じく高い値であった。

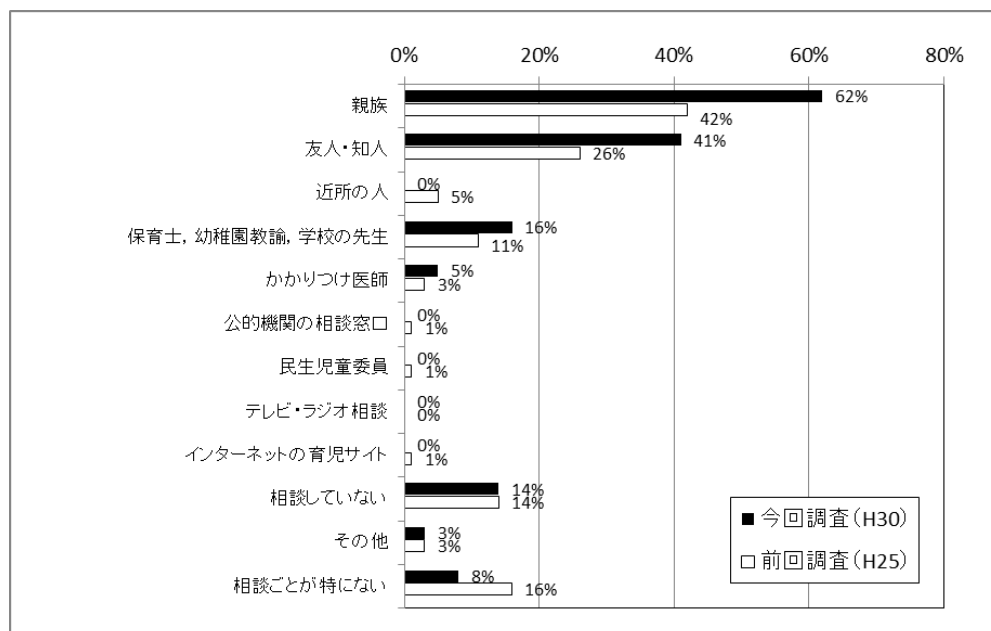


(4) 子育てに関して悩んでいること(相談先)

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】(資料編P66)

相談先として「親族」が62%、「友人・知人」が41%と大きな割合を占め、前回調査と比較してそれぞれ15~20%増加した。

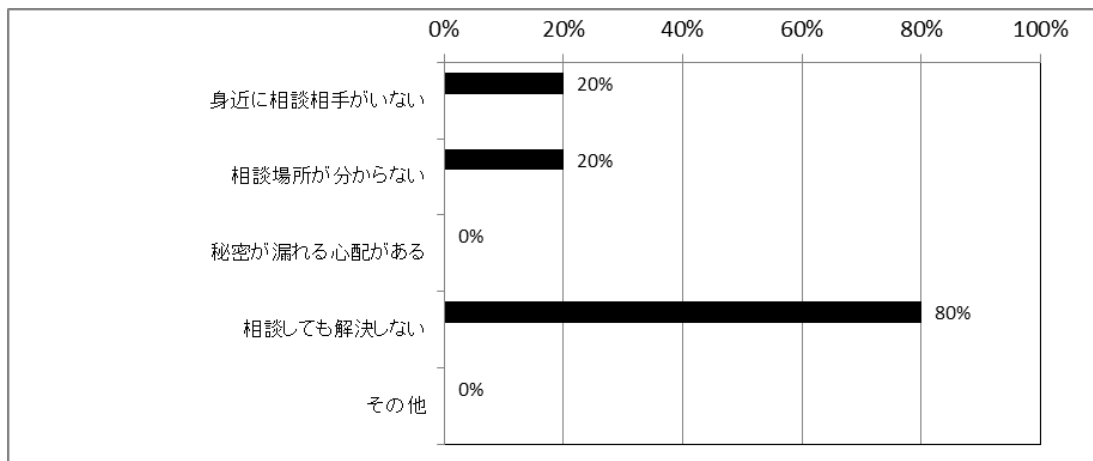


(5) 相談していない理由

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P67）

「相談していない」が80%であり、「就学前」「就学（小学）」と比較しても高い値を示した。

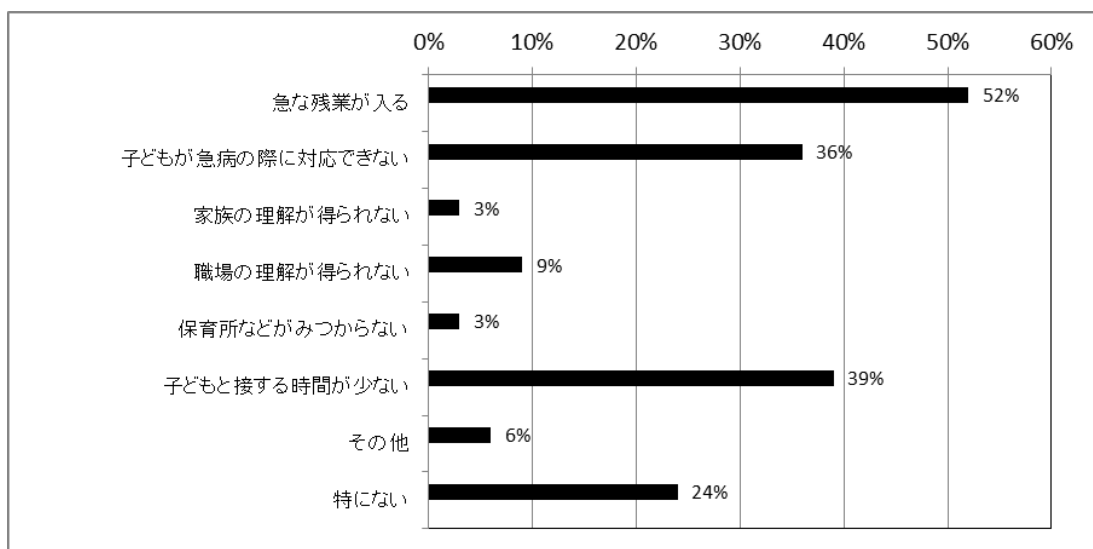


(6) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P67）

「急な残業が入る」の52%が最も高く、次いで「子どもと接する時間が少ない」は39%、「子どもが急病の際に対応できない」が36%と続く。「就学前」「就学（小学）」と比較しても、「急な残業が入る」の高さが顕著である。



4 旭川市で子育てを行っている中での満足度

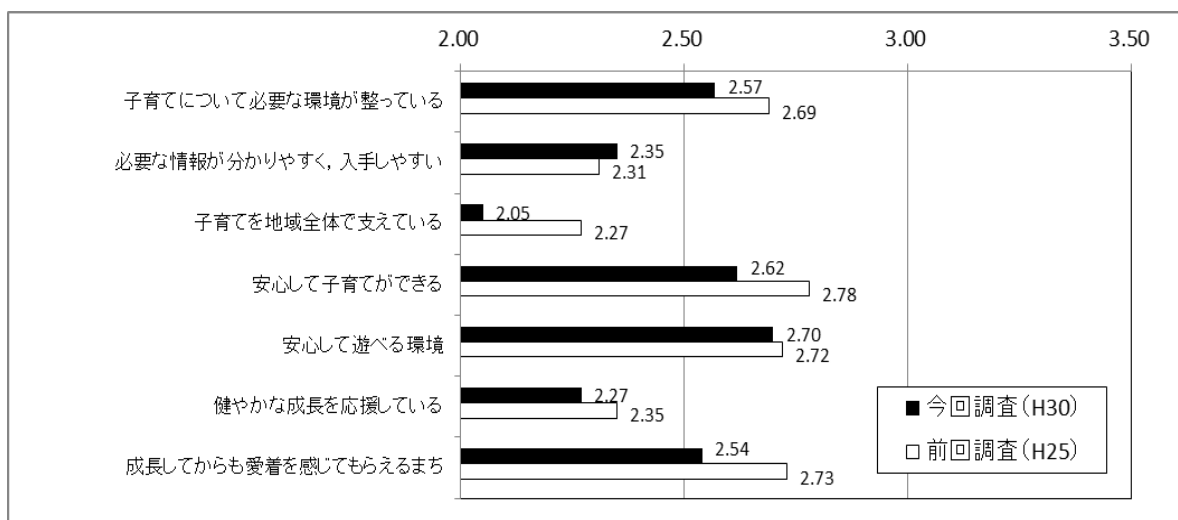
(1) 満足度(保護者の視点, 子どもの視点)

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P67～68）

7 項中 6 項目で前回調査を 0.02～0.22 点下回った。

全体を通じて、依然として中間値＝3 未満の得点にとどまっており、次の設問の結果もふまえて、世帯の状況に応じた施策を進めていく必要がある。



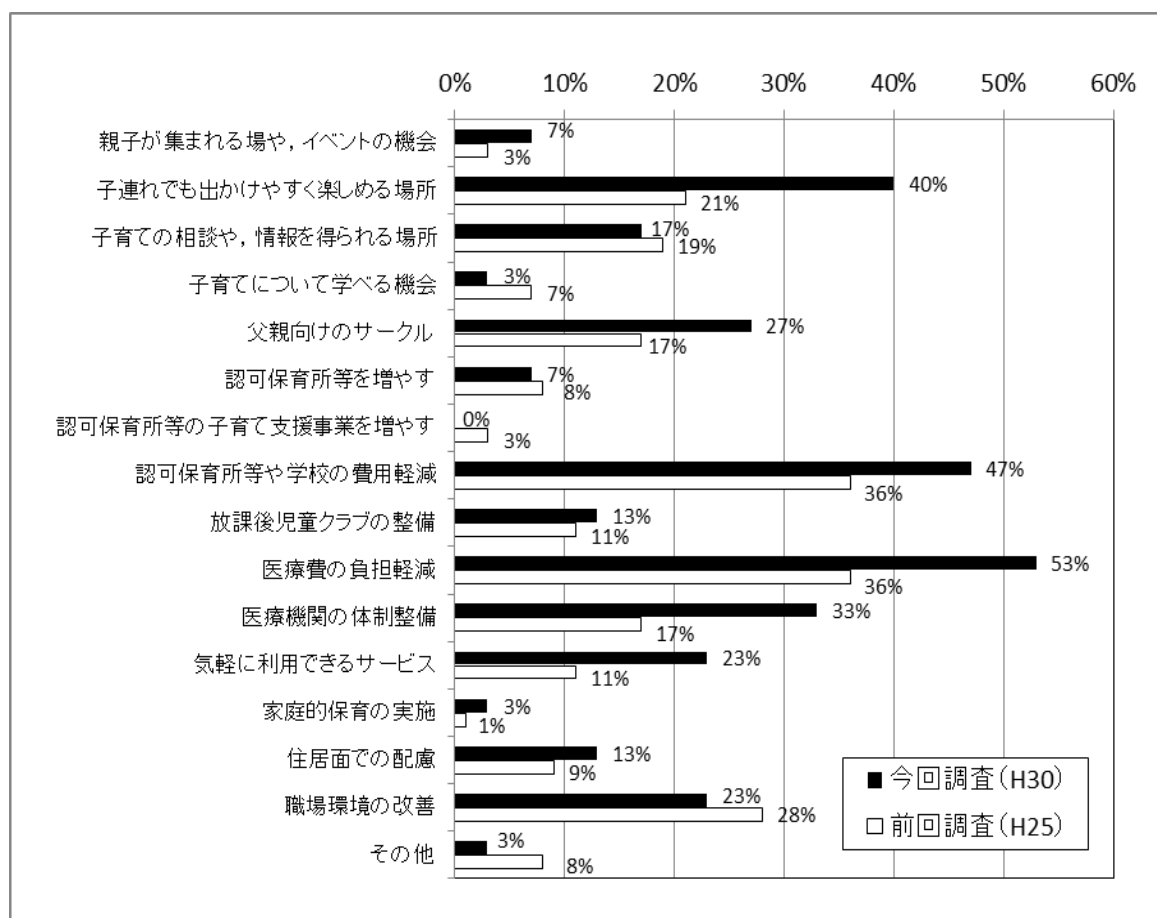
5 子育てに関する行政サービスへの要望

(1) 子育て支援環境の充実のために、どのような支援策が望ましいか

ひとり親(父子)

【ひとり親（父子）】（資料編P68）

回答が多かった順に、「医療費の負担軽減」（53%）、「認可保育所等や学校の費用軽減」（47%）、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」（40%）であった。その他、前回調査と比較すると、「医療機関の体制整備」「気軽に利用できるサービス」「父親向けのサークル」の割合がそれぞれ10～16%上昇した。



「旭川市子ども・子育てプラン」（次期計画）
に関するニーズ調査 結果報告書

平成31年（2019年）3月
旭 川 市

〔監修者〕

旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科 准教授 栗 田 克 実

〔発 行〕

旭川市子育て支援部子育て支援課

〒070-8525 旭川市7条通10丁目

TEL 0166-25-9128 FAX 0166-22-3275
